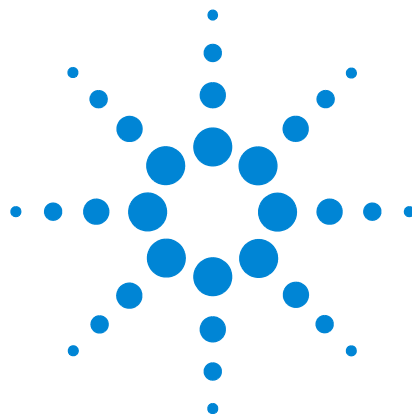




Agilent OpenLab CDS EZChrom Edition

ワークステーションの
インストールと
コンフィギュレーションガイド



Agilent Technologies

注意

© Agilent Technologies, Inc. 2010-2018

本マニュアルの内容は米国著作権法および国際著作権法によって保護されており、Agilent Technologies, Inc. の書面による事前の許可なく、本書の一部または全部を複製することはいかなる形態や方法（電子媒体への保存やデータの抽出または他国語への翻訳など）によっても禁止されています。

マニュアル番号

M8201-96078

エディション

Rev. B

07/2018

Printed in Germany

Agilent Technologies
Hewlett-Packard-Strasse 8
76337 Waldbronn

ソフトウェアリビジョン

このガイドは、Agilent OpenLab CDS EZChrom Edition のリビジョン A.04.09 に対応しています。

保証

このマニュアルの内容は「現状有姿」提供されるものであり、将来の改訂版で予告なく変更されることがあります。Agilent は、法律上許容される最大限の範囲で、このマニュアルおよびこのマニュアルに含まれるいかなる情報に関しても、明示黙示を問わず、商品性の保証や特定目的適合性の保証を含むいかなる保証も行いません。Agilent は、このマニュアルまたはこのマニュアルに記載されている情報の提供、使用または実行に関連して生じた過誤、付随的損害あるいは間接的損害に対する責任を一切負いません。Agilent とお客様の間に書面による別の契約があり、このマニュアルの内容に対する保証条項がここに記載されている条件と矛盾する場合は、別に合意された契約の保証条項が適用されます。

技術ライセンス

本書で扱っているハードウェアおよびソフトウェアは、ライセンスに基づき提供されており、それらのライセンス条項に従う場合のみ使用または複製することができます。

権利の制限

ソフトウェアが米国政府とのプライム・コントラクト（元請契約）またはその下請契約の履行に際して使用される場合、ソフトウェアは、DFAR 252.227-7014 (June 1995) に定義された “Commercial computer software”、FAR 2.101 (a) に定義された “commercial item” または FAR 52.227-19 (June 1987) もしくはこれに匹敵する政府機関の規則や契約条項に定義された “Restricted computer software” として提供され、使用許諾されます。ソフトウェアの使用、複製または開示は、Agilent Technologies の標準商用ライセンス条項に従うものとし、米国政府の国防総省以外の部局は、FAR 52.227-19(c)(1-2)

(June 1987) で定義された Restricted Rights を超える権利を取得しないものとします。米国政府のユーザーは、すべての技術データに適用される FAR 52.227-14 (June 1987) または DFAR 252.227-7015(b)(2) (November 1995) で定義された Limited Rights を超える権利を取得しないものとします。

安全にご使用いただくために

注意

注意は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、製品の破損や重要なデータの損失に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、**注意**を無視して先に進んではなりません。

警告

警告は、取り扱い上、危険があることを示します。正しく実行しなかったり、指示を遵守しないと、人身への傷害または死亡に至るおそれのある操作手順や行為に対する注意を促すマークです。指示された条件を十分に理解し、条件が満たされるまで、**警告**を無視して先に進んではなりません。

本書の内容

本インストールガイドでは、OpenLab CDS EZChrom Edition ワークステーションのインストールおよび設定について説明しています。システム管理者およびその他のユーザーがソフトウェアを素早く、正確にインストールできるようにすることを目的としています。

表 1 このドキュメントで使用される用語と略語

用語	説明
CDS	クロマトデータシステム
EZChrom	OpenLab CDS EZChrom Edition
Data Store	OpenLab Data Store。リビジョン 2.3 以降、製品名は OpenLab Server 2.3
OpenLab Server	新しい製品名。旧称 OpenLab Data Store
Content Management	OpenLab Server の一部として提供されるデータストレージコンポーネント
ECM	OpenLab Enterprise Content Manager
AIC	Agilent 機器コントローラ
コントロールパネル	OpenLab Control Panel
Microsoft コントロールパネル	Microsoft Windows オペレーティングシステムの一部
Shared Services	ライセンス、ユーザーとロール、機器コンフィギュレーション、セキュリティポリシーなどに関する一連のコンポーネントとサービス。 すべてのコンピューターにインストールされ、OpenLab Control Panel からアクセスします。
OpenLab CDS Shared Services Server	Shared Services を実行するサーバー。 以前は OpenLab Shared Services Server でした。

1 ワークステーション PC の設定

Agilent 提供の PC バンドルには、サポートされている Windows オペレーティングシステムがプリインストールされ、パフォーマンスが最適になるように設定されています。Agilent PC バンドルシステムではない場合、パフォーマンスを最適化するためにマニュアルでコンフィグレーション変更を行う必要があります。この章では、Agilent 以外の PC バンドルシステムを設定する方法を説明します。

2 ソフトウェアのインストール

ソフトウェアは、OpenLab CDS EZChrom Edition Master Installer で自動的にインストールされます。このツールにより、EZChrom の各種コンポーネントがインストールされます。

3 インストール後のタスク

この章では、インストール終了後に行うタスクについて説明します。

4 オプションの手順

この章では、追加ドライバーとソフトウェアウィザードに関する情報、Software Verification Tool に関する情報、およびその他の便利な手順に関する情報を提供します。

5 ライセンス

この章では、ライセンスを取得してインストールする方法に関する情報を記載しています。

6 コントロールパネルでの OpenLab CDS EZChrom Edition の設定

この章では、ソフトウェアのインストール後の初期設定手順について説明します。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

7 EZChrom エディションの 最新バージョンへのアップグレード

この章では、EZChrom エディション A.04.0x からのアップグレードについて説明します。

8 ソフトウェアのアンインストール

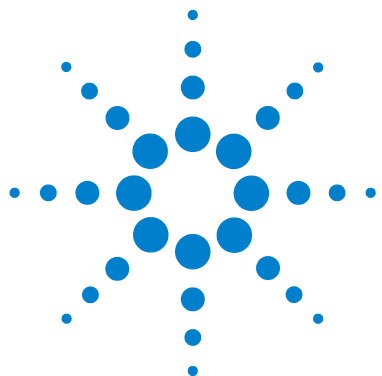
この章では、OpenLab CDS EZChrom Edition アンインストールウィザードを使用したアンインストールについて説明します。また、同じコンピューターに EZChrom を再インストールする場合の、アンインストール後に必要な作業についても説明しています。

目次

1	ワークステーション PC の設定	8
	設定について	9
	Windows のインストール	10
	Windows 7 の設定	11
	Windows 10 の設定	17
2	ソフトウェアのインストール	24
	始める前に	25
	手順 1: インストールの準備	28
	手順 2: サードパーティツールのインストール	28
	Adobe PDF Reader のインストール	28
	.NET 4.7.1 のインストール	29
	手順 3: 指定したフォルダーにインストールファイルを コピーしてインストールする（オプション）	30
	手順 4: システムコンフィグレーションチェッカーの実行	31
	手順 5: インストールウィザードの実行	33
	使用許諾契約書の画面	33
	インストールフォルダー画面	33
	インストールの種類画面	34
	サマリ画面	35
	スクリプト化インストール	36
	XML としてエクスポート	36
	パラメータおよびリターンコード	37
	インストール、アップグレード、または修復	41
	アンインストール	42
	ログおよびトレース	42

追加ソフトウェアとドライバーのインストール	43
次の作業内容	44
3 インストール後のタスク	45
ウィルス対策プログラムの設定	46
オペレーティングシステムでのプリントサーバーの セットアップ	48
4 オプションの手順	49
ソフトウェアインストール後のソフトウェア ベリフィケーションの実行	50
AFS（拡張ファイルセキュリティ）の コンフィグレーション	50
AFS（拡張ファイルセキュリティ）の有効化	51
オフラインマシン上でのパフォーマンスの向上	55
5 ライセンス	56
OpenLab CDS EZChrom Edition ライセンスについて	57
ライセンスタイプ	57
ライセンスの取得	59
SubscribeNet でのライセンスの取得	59
ライセンスのインストール	64
6 コントロールパネルでの OpenLab CDS EZChrom Edition の設定	65
認証	66
認証プロバイダー	66
認証の設定	67
セキュリティポリシーの設定	68
ユーザー / グループ / ロールを設定する	68
ユーザーの作成またはインポート	69

ロールと権限	70
個別機器に関する特定のロール	72
初期プロジェクトの設定	72
初期機器のコンフィグレーション	73
OpenLab でのプリントサーバーのコンフィグレーション	74
7 EZChrom エディションの最新バージョンへのアップグレード	75
EZChrom A.04.0x のアップグレードプラン	76
EZChrom の A.04.09 へのアップグレード	77
ライセンスアップグレード	79
アップグレードライセンスファイルの取得	79
システムへのアップグレードライセンスファイルの追加	80
アップグレードウィザードの実行	81
8 ソフトウェアのアンインストール	83
アンインストールについて	84
OpenLab CDS EZChrom Edition アンインストールウィザードの実行	85
9 営業およびサポートのお問い合わせ先	86



1

ワークステーション PC の設定

Agilent 提供の PC バンドルには、サポートされている Windows オペレーティングシステムがプリインストールされ、パフォーマンスが最適になるように設定されています。Agilent PC バンドルシステムではない場合、パフォーマンスを最適化するためにマニュアルでコンフィグレーション変更を行う必要があります。この章では、Agilent 以外の PC バンドルシステムを設定する方法を説明します。



設定について

Windows システムで OpenLab CDS EZChrom Edition が正しく動作するには、この文書に記載されている設定に変更する必要があります。いくつかの変更は、アプリケーションのパフォーマンスを最適化するためものです。また、アプリケーションの画面表示に影響する変更や、その他の小さい変更があります。

注記

変更の重要性を区別するために、手順の説明に次のような印を付けています。

必須：この変更を必ず適用してください。

パフォーマンス：この変更によってシステムのパフォーマンスが向上します。

オプション：ほとんどは、アプリケーションの画面表示に影響する変更です。

注記

Windows のユーザーアカウント制御（UAC）をオンにしている場合は、設定の変更によっては、作業の続行を明示的に承認しなければならないことがあります。

Windows のインストール

注記

PC に適切なセキュリティ修正プログラムをインストールするまで、インターネットとの接続を切断しておいてください。ネットワークに接続する前に、Agilent Technologies がサポートしている最新のセキュリティ修正プログラムとウイルス定義ファイルをインストールしてください。

- 1 Microsoft のインストールメディアから、Windows をインストールします。セットアップ中に、コンピューター名と管理者のパスワードの指定とネットワークの設定を行います。システムを既存のドメインに参加させることも、ワークグループモードに設定することもできます。
- 2 システムへのウイルス感染を防ぐために、ウイルス対策プログラムをインストールします。『*OpenLab CDS EZChrom Edition 要件ガイド*』の「ファイアウォール設定」に記載されたファイアウォールポートを必ず開いてください。

注記

ウイルス対策プログラムを実行すると、コンピューターの動作とパフォーマンスが影響を受けることがあります。ウイルススキャナによっては、OpenLab CDS EZChrom Edition と併用すると問題が生じる可能性があります。Symantec Endpoint Protection 12.x および Microsoft Security Essentials でテスト済みです。

Windows 7 の設定

- [必須] 1 **【システム】** (Microsoft コントロールパネル¹) : Windows を Microsoft に登録します。
- [必須] 2 **【フォルダーオプション】** (Microsoft コントロールパネル) : **【表示】** タブで、
- **【常にメニューを表示する】** を選択します。
 - **【タイトルバーに完全なパスを表示する】** を選択します。
 - **【登録されている拡張子は表示しない】** の選択を解除します。
 - **【共有ウィザードを使用する】** の選択を解除します。
- [必須] 3 **【Windows Update】** (Microsoft コントロールパネル) :
- a **【更新プログラムの確認】** をクリックして更新プログラムを確認し、重要なセキュリティパッチをすべて適用します。
- b **【設定の変更】** をクリックします。**【重要な更新プログラム】** セクションで **【更新プログラムを確認しない】** を選択します。他のオプションの選択をすべて解除します。

注記

この設定は、データ測定中にコンピューターが再起動され、データが失われるのを防ぐために必要です。

- [必須] 4 **【管理ツール】** (Microsoft コントロールパネル) : サービスを無効にします。
- a **【サービス】** をダブルクリックします。
- b 以下のサービスをダブルクリックし、そのスタートアップの種類を **【無効】** に設定します。
- **Application Experience**
 - **Desktop Window Manager Session Manager**

1 すべての項目の一覧を見るには、アイコン表示に切り替えてください。

ワークステーション PC の設定

Windows 7 の設定

- 【必須】 5 [管理ツール]** (Microsoft コントロールパネル) : セキュリティポリシーを設定します。
- a **[ローカルセキュリティポリシー]** をダブルクリックします。
 - b **[セキュリティの設定] > [ローカルポリシー] > [セキュリティオプション]** の順に選択します。
 - c 右側のパネルに表示される、以下のポリシーをダブルクリックします。
[ネットワークアクセス : ローカルアカウントの共有とセキュリティモデル]
 - d 表示されたダイアログで、ドロップダウンリストから次の項目を選択します。**クラシック : ローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する**
- 【必須】 6 [インデックスのオプション]** (Microsoft コントロールパネル) : インデックス作成を無効にします。
- 【変更】** ボタンをクリックします。すべてのドライブの選択を解除します。
- 【必須】 7 [電源オプション]** (Microsoft コントロールパネル) :
- a お気に入りのプランとして **[高パフォーマンス]** を選択します。
 - b **[プラン設定の変更]** をクリックします。
 - c **[コンピューターをスリープ状態にする]** オプションを **[適用しない]** に設定します。
 - d **[詳細な電源設定の変更]** をクリックします。
 - e **[ハードディスク] > [次の時間が経過後ハードディスクの電源を切る]** の順にノードを開きます。
 - f 値を 0 (= なし) に設定します。
- 【必須】 8 [地域と言語]** (Microsoft コントロールパネル) :
- a 地域のオプションを、ドロップダウンリストから **[日本語 (日本)]** に設定します。
 - b **[英語 (米国)]** 以外の地域の形式を使用している場合は、次の設定が必須です。この設定は、**[追加の設定 ...]** ボタンをクリックすることで定義できます。
 - 小数点の記号 = . (ピリオド)
 - 桁区切り記号 = , (コンマ)
 - 区切り記号 = , (コンマ)

- [必須] 9 [日付と時刻] (Microsoft コントロールパネル) : コンピューターが設置されている場所のタイムゾーンを選択します。
- [必須] 10 [ネットワークと共有センター] (Microsoft コントロールパネル) :
- a [アダプターの設定の変更] を選択します。[ローカルエリア接続] を右クリックして [プロパティ] を選択し、[構成] をクリックします。
 - e [電源の管理] タブで、すべてのチェックボックスをオフにします。
- [必須] 11 [プログラムと機能] (Microsoft コントロールパネル) : Non-Http Activation を有効にします。
- a [Windows の機能の有効化または無効化] をクリックします。
 - b [Microsoft .NET Framework 3.5.1] ノードを展開し、[Windows Communication Foundation Non-HTTP Activation] チェックボックスを選択してください。
 - c [Internet Explorer 11] チェックボックスをオンにします。
 - d [Telnet クライアント] チェックボックスをオンにします。
 - e [TFTP クライアント] チェックボックスをオンにします。
 - f PC を再起動します。
- [必須] 12 Windows のログオンオプションを変更します ([スタート] をクリックして、gpedit.msc を検索します)。
- a [ローカルコンピューターポリシー] > [コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [システム] > [ログオン] の順に選択します。
 - b [ユーザーの簡易切り替えのエントリポイントを非表示にする] と [常に従来のログオンを使う] を [有効] に設定します。
- [必須] 13 Internet Explorer の互換表示を無効にします。

注記

この手順は、OpenLab Content Management (旧称 OpenLab Data Store) を使用する場合のみ必要です。

- a Internet Explorer を開きます。
- b [ツール] メニューの [互換表示設定] を選択します。
- c [イントラネットサイトを互換表示で表示する] チェックボックスをオフにします。

- 〔必須〕** 14 ナビゲーションウィンドウを有効にします。

Windows Explorer を開き、**〔整理〕** > **〔レイアウト〕** を選択し、**〔ナビゲーションウィンドウ〕** が選択されていることを確認します。

- 〔パフォーマンス〕** 15 **〔システム〕** (Microsoft コントロールパネル) パフォーマンスのオプションを変更します。

- a **〔システムの詳細設定〕** をクリックします。
- b **〔詳細設定〕** タブの **〔パフォーマンス〕** の下にある **〔設定〕** をクリックします。
- c **〔視覚効果〕** タブで、**〔コンピューターに応じて最適なものを自動的に選択する〕** を選択します。
- d **〔カスタム〕** で、以下のチェックボックスをオンにして使いやすくします。
 - ・ **〔スクリーンフォントの縁を滑らかにする〕**
 - ・ **〔マウスポインターの下に影を表示する〕**
 - ・ **〔ウィンドウの下に影を表示する〕**

- 〔パフォーマンス〕** 16 **〔システム〕** (Microsoft コントロールパネル) システムのプロパティを変更します。

- a **〔システムの詳細設定〕** をクリックします。
- b **〔詳細設定〕** タブの **〔パフォーマンス〕** の下にある **〔設定〕** をクリックします。
 - ・ **〔詳細設定〕** タブ > **〔仮想メモリ〕** : 最適なパフォーマンスを得るには、**〔変更〕** ボタンを使用して、ページングファイルのサイズを PC の物理 RAM 容量の 2 ～ 3 倍に設定します。可能であれば、システムインストールドライブとは別のドライブのページングファイルを指定してください。
 - ・ **〔データ実行防止〕** タブ : **〔重要な Windows のプログラムおよびサービスについてのみ有効にする〕** を選択します。
- c **〔詳細設定〕** > **〔起動と回復〕** > **〔設定〕** ボタンをクリックします。
 - ・ **〔起動システム〕** セクション :
〔... を表示する時間〕 の両方を、**30 秒** から **3 秒** に変更します。
 - ・ **〔システムエラー〕** セクションで次の操作を行います。

【自動的に再起動する】を選択し、【デバッグ情報の書き込み】セクションで、ドロップダウンリストから【カーネルメモリダンプ】を選択します。

d 【システムの保護】 タブ

【保護】 がオフになっていることを確認します。必要に応じて、【構成】をクリックし、【システムの保護を無効にする】を選択します。

e 【リモート】 タブで次の操作を行います。

- 【リモートアシスタンス】 セクションの【このコンピューターへのリモートアシスタンス接続を許可する】 チェックボックスをオフにします。
- 【リモートデスクトップ】 セクションで、【このコンピューターへの接続を許可しない】 を選択します。

【オプション】 17 画面の全般的なレイアウトを設定します（【スタート】 を右クリックし、【プロパティ】 をクリックします）。

a 【【スタート】 メニュー】 タブ：【プライバシー】 セクションで両方の項目を選択します。

b 【【スタート】 メニュー】 タブの【カスタマイズ】 ボタンを選択します。
【【スタート】 メニューのカスタマイズ】 ダイアログボックスで、以下の手順を実行します。

- 次のオプションの選択を解除します。
 - 【【お気に入り】 メニュー】
- 次のオプションを選択します。
 - 【コンピューター】 の下の【リンクとして表示する】
 - 【接続先】
 - 【コントロールパネル】 の下の【メニューとして表示する】
 - 【既定のプログラム】
 - 【デバイスとプリンター】
 - 【ドキュメント】 の下の【リンクとして表示する】
 - 【コンテキストメニューと【スタート】 メニューへの項目のドラッグ / ドロップを有効化する】
 - 【ゲーム】 の下の【この項目を表示しない】
 - 【ヘルプ】

- [新しくインストールされたプログラムを強調表示する]
- [ミュージック] の下の [この項目を表示しない]
- ネットワーク
- [マウスポインターを置いたときにサブメニューを開く]
- [個人用フォルダー] の下の [リンクとして表示する]
- [ピクチャ] の下の [リンクとして表示する]
- [[ファイル名を指定して実行] コマンド]
- [その他のファイルとライブラリを検索する] の下の [パブリックフォルダーも検索する]
- [プログラムおよびコントロールパネルを検索する]
- [[すべてのプログラム] メニューを名前ですべて替える]
- [システム管理ツール] の下の [[すべてのプログラム] メニューと [スタート] メニューに表示する]
- [大きいアイコンを使用する]

- 【オプション】 18** ようこそ画面の表示設定を変更します ([スタート] をクリックして、gpedit.msc を検索します)。
- a [ローカルコンピューターポリシー] > [コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [システム] > [ログオン] の順に選択します。
- b [ログオン時によろこそ画面を表示しない] を [有効] に設定します。

- 【オプション】 19** ごみ箱のプロパティ：(デスクトップにある [ごみ箱] アイコンを右クリックします)。以下のオプションを選択します。
- [カスタムサイズ] を選択し、最大サイズをドライブの全ディスク容量の約 10 % に設定します。
 - [削除の確認メッセージを表示する] を選択します。

上記の手順をコンピューターのすべてのドライブで繰り返します。

- 【オプション】 20** [地域と言語] (Microsoft コントロールパネル)：Unicode に対応していないプログラムの言語：[管理] タブの [システムロケールの変更 ...] をクリックします。ドロップダウンリストから [日本語 (日本)] を選択します。

注記

英語、日本語、または中国語のオペレーティングシステムを使用している場合は、システムロケールを変更しないでください。

Windows 10 の設定

- [必須] 1 **【システム】** (Microsoft コントロールパネル)¹ : Windows を Microsoft に登録します。
- [必須] 2 **【エクスプローラのオプション】** (Microsoft コントロールパネル) : **【表示】** タブで、
- **【常にメニューを表示する】** を選択します。
 - **【タイトルバーに完全なパスを表示する】** を選択します。
 - **【登録されている拡張子は表示しない】** の選択を解除します。
 - **【共有ウィザードを使用する】** の選択を解除します。
- [必須] 3 **【スタート】 > 【設定】 > 【更新とセキュリティ】** :
- a **【更新プログラムのチェック】** をクリックして更新プログラムを確認し、重要なセキュリティパッチをすべて適用します。
続行する前に、すべての更新プログラムがダウンロードおよびインストールされていることを確認します。再起動が保留となっていないことを確認します。
 - b **【詳細オプション】** をクリックします。
 - c 機能更新を延期するを設定します。
 - d **【更新プログラムの提供方法を選ぶ】** をクリックします。
 - e **【複数の場所から更新する】** をオフにします。
- [必須] 4 更新プログラムの設定 : インストール時に **Windows 更新プログラム** サービスが実行されないようにしてください。
- [必須] 5 **【インデックスのオプション】** (Microsoft コントロールパネル) : インデックス作成を無効にします。
【変更】 ボタンをクリックします。すべてのドライブの選択を解除します。
- [必須] 6 **【スタート】 > 「gpedit.msc」を検索** : Windows のログオンオプション
- a **【ローカルコンピューターポリシー】 > 【コンピューターの構成】 > 【管理用テンプレート】 > 【システム】 > 【ログオン】** の順に選択します。
 - b **【ユーザーの簡易切り替えのエントリポイントを非表示にする】** と **【常に従来のログオンを使う】** を **【有効】** に設定します。

1 すべての項目の一覧を見るには、アイコン表示に切り替えてください。

- [必須] の場合 7 [スタート] > [設定] > [システム] > [タブレットモード] : [サインイン時の動作] で、[デスクトップモードを使用します] を選択します。
- [必須] 8 [電源オプション] (Microsoft コントロールパネル) :
a お気に入りのプランとして [高パフォーマンス] を選択します。
b [プラン設定の変更] をクリックします。
c [コンピューターをスリープ状態にする] オプションを [なし] に設定します。
d [詳細な電源設定の変更] をクリックします。
e [ハードディスク] > [次の時間が経過後ハードディスクの電源を切る] の順にノードを開きます。
f 値を 0 (= なし) に設定します。
- [必須] 9 [スタート] > [設定] > [アプリ] > [オフラインマップ] : [従量制課金接続] および [マップの更新] をオフにします。
- [必須] 10 [管理ツール] (Microsoft コントロールパネル) : セキュリティポリシーを設定します。
a [ローカルセキュリティポリシー] をダブルクリックします。
b [セキュリティの設定] > [ローカルポリシー] > [セキュリティオプション] の順に選択します。
c 右側のパネルに表示される、以下のポリシーをダブルクリックします。
[ネットワークアクセス : ローカルアカウントの共有とセキュリティ モデル]
d 表示されたダイアログで、ドロップダウンリストから次の項目を選択します。
クラシック : ローカルユーザーがローカルユーザーとして認証する
- [必須] 11 [スタート] > [設定] > [システムとセキュリティ] :
a [Windows SmartScreen 設定の変更] をクリックします。
b [何もしない (Windows SmartScreen を無効にする)] を選択します。
- [必須] 12 [日付と時刻] (Microsoft コントロールパネル) : コンピューターが設置されている場所のタイムゾーンを選択します。
- [必須] 13 [ネットワークと共有センター] (Microsoft コントロールパネル) :
a [アダプターの設定の変更] を選択します。[ローカルエリア接続] を右クリックして [プロパティ] を選択し、[構成] をクリックします。
b [電源の管理] タブで、すべてのチェックボックスをオフにします。

[必須] 14 [プログラムと機能] (Microsoft コントロールパネル) :

- a [Windows の機能の有効化または無効化] をクリックします。
- b [.NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)] チェックボックスをオンにして、.NET 3.5 を有効にします。
このオプションには、インターネット接続が必要です。

注記

この手順が予想どおりに機能しない場合や、コンピューターがインターネットにアクセスできない場合は、Windows インストールメディアから .NET 3.5 をインストールしてください (詳細は <https://support.microsoft.com/ja-jp/kb/2734782> の Windows 10 を参照)。インストールメディアがない場合は、<https://www.microsoft.com/ja-jp/software-download/windows10> の説明に従って作成してください。

- c すべての net.tcp コンポーネントが適切に初期化されるように、[非 Http アクティブ化] を有効にしてください。[.NET Framework 3.5 (.NET 2.0 および 3.0 を含む)] ノードを展開し、[Windows Communication Foundation 非 HTTP アクティブ化] チェックボックスを選択してください。
- d [.NET Framework 4.6 Advanced Services] チェックボックスをオンにします。
サブアイテムに対してデフォルト値を使用します。
- e [Internet Explorer 11] チェックボックスをオンにします。
- f [Telnet クライアント] チェックボックスをオンにします。
- g [TFTP クライアント] チェックボックスをオンにします。
- h PC を再起動します。

[必須] 15 [スタート] > [設定] > [アプリ] > [既定のアプリ] : Internet Explorer を規定の Web ブラウザとして選択します。
Edge は使用しないでください。サポートされていません。Edge をタスクバーから外します。

[必須] 16 Internet Explorer の互換表示を無効にします。

- a Internet Explorer を開きます。
- b [ツール] メニューの [互換表示設定] を選択します。
- c [イントラネットサイトを互換表示で表示する] チェックボックスをオフにします。

- [必須]** 17 ナビゲーションウィンドウを有効にします。

Windows Explorer を開き、リボンから **[表示] > [ナビゲーションウィンドウ]** を選択し、**[ナビゲーションウィンドウ]** が選択されていることを確認します。

- [必須]** 18 ビルトイン Administrator アカountのための管理者承認モードを無効にします。

- a **[スタート]** 画面で**ローカルセキュリティポリシー**と入力し、**ENTER** を押します。
- b **[ローカルポリシー] > [セキュリティオプション]** の順に選択します。
- c **[ユーザーアカウント制御：ビルトイン Administrator アカountのための管理者承認モード]** ポリシーをダブルクリックします。
- d **[無効]** を選択し、**[OK]** をクリックします。

- [必須]** 19 イン트라ネットのネットワークを自動的に検出します。

- a Internet Explorer を開きます。
- b **[ツール]** メニューの **[インターネットオプション]** を選択します。
- c **[セキュリティ]** タブの **[ローカルイントラネット]** を選択し、**[サイト]** をクリックします。
- d **[イントラネットのネットワークを自動的に検出する]** を選択します。
- e **[詳細設定]** をクリックします。
- f EZChrom インストーラがマッピングされるネットワークパスを追加し、**[閉じる]** をクリックします。

- [パフォーマンス]** 20 **[システム]** (Microsoft コントロールパネル)：パフォーマンスオプションの変更：

- a **[システムの詳細設定]** をクリックします。
- b **[詳細設定]** タブの **[パフォーマンス]** の下にある **[設定]** をクリックします。
- c **[視覚効果]** タブで、**[コンピューターに応じて最適なものを自動的に選択する]** を選択します。
- d **[カスタム]** で、以下のチェックボックスをオンにして使いやすくします。
 - ・ **[スクリーンフォントの縁を滑らかにする]**
 - ・ **[マウスポインターの下に影を表示する]**
 - ・ **[ウィンドウの下に影を表示する]**

- [パフォーマンス] 21 [スタート] > [設定] > [個人用設定] > [色] : [スタート、タスクバー、およびアクションセンターを透明にする] をオフにします。
- [パフォーマンス] 22 [システム] (Microsoft コントロールパネル) : システムプロパティの変更 :
- a [システムの詳細設定] をクリックします。
 - b [詳細設定] タブの [パフォーマンス] の下にある [設定] をクリックします。
 - [詳細設定] タブ > [仮想メモリ] : 最適なパフォーマンスを得るには、[変更] ボタンを使用して、ページングファイルのサイズを PC の物理 RAM 容量の 2 ~ 3 倍に設定します。可能であれば、システムインストールドライブとは別のドライブのページングファイルを指定してください。
 - [データ実行防止] タブ : [重要な Windows のプログラムおよびサービスについてのみ有効にする] を選択します。
 - c [詳細設定] > [起動と回復] > [設定] ボタンをクリックします。
 - [起動システム] セクション :
[... を表示する時間] の両方を、30 秒から 3 秒に変更します。
 - [システムエラー] セクションで次の操作を行います。
[自動的に再起動する] を選択し、[デバッグ情報の書き込み] セクションで、ドロップダウンリストから [カーネルメモリダンプ] を選択します。
 - d [システムの保護] タブ
[保護] がオフになっていることを確認します。必要に応じて、[構成] をクリックし、[システムの保護を無効にする] を選択します。
 - e [リモート] タブで次の操作を行います。
 - [リモートアシスタンス] セクションの [このコンピューターへのリモートアシスタンス接続を許可する] チェックボックスをオフにします。
 - [リモートデスクトップ] セクションで、[このコンピューターへのリモート接続を許可しない] を選択します。

[オプション] 23 [スタート] > [設定] > [個人用設定] : 広告情報を無効にします。

a [ロック画面] ページで :

- [背景] で [画像] または [スライドショー] を選択します。
- [トリビアやヒントなどの情報をロック画面に表示する] をオフにします。
- [サインイン画面にロック画面の背景画像を表示する] をオフにします。

b [スタート] ページで :

[ときどきスタート画面におすすめを表示する] をオフにします。

[オプション] 24 [スタート] > [設定] > [プライバシー] :

a [全般] タブで、以下をオフにします。

- アプリで自分の広告識別子を使うことを許可する。
- SmartScreen フィルターをオンにして Web コンテンツを確認する。
- 入力に関する情報を Microsoft に送信する。

b [位置情報] ページで、[位置情報] をオフにします。

[オプション] 25 [スタート] > 「gpedit.msc」を検索 : ようこそ画面 :

a [ローカルコンピューターポリシー] > [コンピューターの構成] > [管理用テンプレート] > [システム] > [ログオン] の順に選択します。

b [ログオン時にようこそ画面を表示しない] を [有効] に設定します。

[オプション] 26 ごみ箱のプロパティ : (デスクトップにある [ごみ箱] アイコンを右クリックします。) 以下のオプションを選択します。

- [カスタムサイズ] を選択し、最大サイズをドライブの全ディスク容量の約 10 % に設定します。
- [削除の確認メッセージを表示する] を選択します。

上記の手順をコンピューターのすべてのドライブで繰り返します。

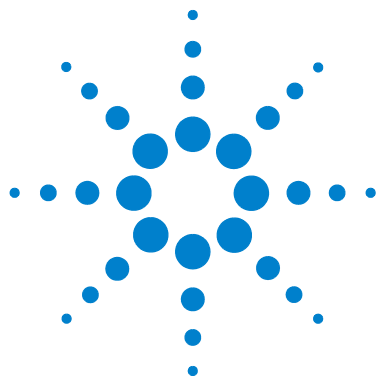
27 [地域] (Microsoft コントロールパネル) : Unicode に対応していないプログラムの言語 :

[管理] タブの [システムロケールの変更 ...] をクリックします。ドロップダウンリストから [日本語 (日本)] を選択します。

注記

英語、ポルトガル語、日本語、または中国語のオペレーティングシステムを使用している場合は、システムロケールを変更しないでください。

- 【オプション】 28** タスクバーを右クリックして、設定ダイアログを開きます。**【タスクバー】** タブで、**【タスクバーボタンを結合する】** の **【タスクバーに入りきらない場合】** を選択します。
- これにより、開いている CDS 間の切り替えが簡略化されます。



2

ソフトウェアのインストール

ソフトウェアは、OpenLab CDS EZChrom Edition Master Installer で自動的にインストールされます。ウィザードの指示に従って、OpenLab CDS EZChrom Edition を実行するために必要なすべてのコンポーネントをインストールします。



始める前に

ソフトウェアのインストールを簡素化するため、実際にソフトウェアインストールを開始する前にいくつかのコンフィグレーションオプションを決めておくくと便利です。

1 コンピューター名を決めます。

コンピューター名は、機器コンフィグレーションに反映されます。煩雑な作業を避けるため、**OpenLab CDS EZChrom Edition** のインストール後はコンピューター名を変更しないことをお勧めします。

注記

DNS サーバーがコンピューター名を解決できるようにするには、プロトコルのインターネット標準 (RFC952) に従って、以下の文字のみ使用してください。

- 文字 (a-z、A-Z)
- 数字 (0-9)
- ハイフン (-)

アンダースコアは使用しないでください。

2 監査証跡の処理方法を決めます。

デフォルトでは、監査証跡は無効になっており、プロジェクトごとにマニュアルで有効にできます。インストールウィザードでは、すべてのプロジェクトに対して監査証跡を有効にする機能を提供しています。監査証跡を有効にすると、無効に戻すことはできません。

3 EZChrom をインストールするには、すべてのサーバーおよびクライアントに対する管理者権限を持っている必要があります。パワーユーザー権限では十分ではありません (インストールを開始できません)。

4 データ、メソッド、シーケンス、コンフィグレーションなど、データシステムソフトウェアに関連するすべてのファイルを保存するディレクトリの場所を決めます。このディレクトリは、ソフトウェアを実行中の PC から常にアクセスできる必要があります。

5 お使いのシステムで OpenLab ECM を使用する場合、ECM サーバー名を取得してください。

注記

ECM および OpenLab の両方に対して管理者権限を持っていることを確認してください。

- 6 ソフトウェアをインストールする方法を決めます。
 - *DVD から直接インストールする場合*- ワークステーションのディスクドライブに、必要なディスクを直接読み込みます。(推奨)
 - *指定したロケーションにインストールファイルをコピーする*- ユーティリティを使用してインストールファイルをネットワーク共有フォルダーや USB ドライブなどにコピーし、そのロケーションからインストールを実行することができます。ただし、ネットワークによってはインストールに支障をきたす場合があります。
- 7 アプリケーションを起動するにあたって、ソフトウェアをインストールする前に、インストーラの【**プラン**】メニューで次の PDF ドキュメントを確認することができます。
 - *OpenLab CDS EZChrom Edition 要件*- この PDF を使用して、設定がネットワーク要件に準拠していることを確認し、ハードウェアとソフトウェアがシステムをサポートしているかどうかを確認できます。
 - *OpenLab CDS EZChrom Edition ワークステーション*- いつでも利用できるように、このインストールガイドの電子コピー版が PDF 形式で提供されています。
- 8 A/D 接続、インターフェイス、検出器、通信ケーブルなど、必要なハードウェアをすべて接続します。
- 9 デフォルトプリンタが Windows でコンフィグレーションされていることを確認します。

これは、Microsoft コントロールパネルから行います。デフォルトプリンタがコンフィグレーションされていない場合、以下の問題が発生する可能性があります。

 - レポートプレビューの出力に失敗する。
 - 【クリップボードへコピー】メニューでエラーが発生する。
 - 【カスタムレポート表示】では新規テンプレートで問題が発生する。

注記

EZChrom のインストール時に、PDF XChange 6 プリンタドライバがインストールされます。このプリンタには以下の制約事項があります。

- 1つの印刷ジョブの最大ページ数は1500です。たとえば、シーケンスサマリーレポートは1つの印刷ジョブです。
- 複数ページのクロマトグラムを印刷する場合、正しく印刷できる最大ページ数はプリンタの解像度によって異なります。クロマトグラムごとに印刷可能なページ数は、300 dpi では10ページ、600 dpi では最大5ページです。

- 10 .NET 4.7.1 が Windows の機能として有効になっているか確認してください。
NET 4.7.1 インストールファイルは、Disk 1 にあります (Disk1¥Tools¥DotNet4.7)。.NET 4.7.1 をインストールするには、ファイルをローカルディスクにコピーします。

注記

ローカルディスクから .NET 4.7.1 のインストールを実行します。Windows はインストールファイルへの書き込みを必要とします。

- 11 インストール時はウイルス対策ソフトウェアが無効になっているようにしてください。
- 12 インストール時にソフトウェアのアップグレードが実行されないようにしてください。
- 13 システムの再起動が保留となっていないことを確かめてください。
再起動の保留はサイトプレパレーションツールに示されます (31 ページの「[手順 4: システムコンフィグレーションチェッカーの実行](#)」を参照)。

手順 1: インストールの準備

ワークステーションへのインストール準備：

- 1 DVD から直接インストールする場合には、OpenLab CDS EZChrom Edition インストールディスク（Disk1）を挿入します。
- 2 共有ファイルを使用する場合は、以下の説明に従って、指定したフォルダーに DVD をすべてコピーします。
- 3 ポータブルデータ保存デバイスを使用する場合は、コンピューターの USB ポートに新しいデバイスを挿入します。

インストールを開始するには、Disk1¥Setup.bat へ移動します。ファイルを右クリックし、管理者として実行して **【プラン】** 画面に進みます。

手順 2: サードパーティツールのインストール

直接インストールすることが可能なツールは、OpenLab CDS EZChrom Edition Master Installer の **【インストール】** 画面に表示されます。

Adobe PDF Reader のインストール

以下を行うには、*Adobe Reader DC Classic* が必要です。

- サイトプレパレーションレポートや管理レポート（システムレポートなど）を表示する。
- レポートビューアー機能を使用する。
- ソフトウェアベリフィケーションレポートを表示する。

注記

古いバージョンの Acrobat Reader（11 以前）がシステムにインストールされている場合は、最初にアンインストールする必要があります。Adobe の更新によってバージョンが Acrobat Reader DC Continuous に上げられ、定期的に自動更新されるようになります。

Adobe Reader DC Classic をインストールする：

1 [サードパーティツール] の [Adobe PDF Reader] を選択します。

- a Adobe Reader のセットアップ画面が表示されます。[インストール] をクリックして続行します。
- b Adobe Reader が正常にインストールされたら、[完了] をクリックしてセットアップ画面を終了してください。

あるいは、インストールメディアから Adobe Reader をインストールすることができます。Disk1¥Tools¥Adobe Reader にあります。

AcroRdr2015_MUI.bat を実行し、Adobe Reader セットアップウィザードの説明に従います。

注記

Adobe PDF Reader をインストールメディアから直接インストールした場合：OpenLab CDS EZChrom Edition ユーザーが PDF ファイルを初めて開くと、Adobe Reader の使用許諾契約画面が表示されます。このダイアログボックスは、Adobe Reader を新しく設定するたびに表示されます。

.NET 4.7.1 のインストール

Windows 7 の場合：システムに .NET 4.7.1 がインストールされていない場合、インストールウィザードによって自動的にインストールが開始されます。ただし、Windows はインストールファイルへの書き込みを要求します。このため、DVD から直接インストールすることはできません。

- 1 フォルダー Disk1¥Tools¥DotNet4.7 をローカルディスクにコピーします。
- 2 dotNetFx47_Full_x86_x64.bat を実行します。
- 3 インストールウィザードに従います。

注記

Microsoft .NET Framework 4.7.1（オフラインインストーラ）は、以下のオペレーティングシステムをサポートしています。Windows 7 SP1、Windows 8.1、Windows 10 Anniversary Update、Windows 10 Creators Update、Windows Server 2008 R2 SP1、Windows Server 2012、Windows Server 2012 R2、および Windows Server 2016。

ソフトウェアのインストール

手順 3: 指定したフォルダーにインストールファイルをコピーしてインストールする
(オプション)

手順 3: 指定したフォルダーにインストールファイルをコピーしてインストールする (オプション)

この手順が完了すると、ネットワーク共有からインストールを実行できます。

- 1 EZChrom Edition Master Installer の【プラン】画面で、サイドバーメニューから【インストール】を選択します。
- 2 【ネットワーク共有からのインストール準備】を選択します。
- 3 【ネットワーク共有】画面で、ディレクトリに移動し、以下のように出力先フォルダーを作成します。

注記

ドライブのルートディレクトリへのインストールは、操作中に問題を引き起こす可能性があるため、サポートしていません。

- a 3 つのドットのあるボタンを選択します。
 - b フォルダーを作成するディレクトリに移動します。
 - c 【新しいフォルダーの作成】を選択します。
 - d フォルダー名を入力します。
 - e 【OK】を選択します。システムが【ネットワーク共有】画面に戻り、パスが表示されます。
 - f インストール状況に応じて、フォルダーにコピーする内容を選択します。
 - g 【開始】を選択します。
- 4 処理が完了したら、ファイルをローカルドライブにコピーするか、ネットワークドライブにロケーションを割り当てます。
 - 5 アプリケーションを閉じて、作成したディレクトリとフォルダーに移動します。フォルダーを開きます。
 - 6 Disk1 フォルダーを選択し、Setup.bat を実行してアプリケーションを起動します。
インストーラの【プラン】画面が表示されます。

手順 4: システムコンフィグレーションチェッカーの実行

- 1 DVD、ポータブルデバイス、または指定したフォルダーから EZChrom Edition Master Installer を実行します。[プラン] 画面から、[システムコンフィグレーションチェッカー] を選択します。
- 2 [サイトプレパレーションツール] が開きます。ドロップダウンリストから [OpenLab CDS EZChrom Edition A.04.XX] を選択します。
- 3 [OK] を選択します。
- 4 1 ページ目の [Contact Information - System details] の空欄を入力します。
 - [System Location] フィールド
 - [System Information] フィールド
 - [Configuration] フィールド
- 5 システムの詳細を確認して、必要事項を入力します。システムは指定されたパスに従います。
- 6 画面の上部左隅の緑のチェックマークアイコンを選択して、システムチェックを開始します。サマリーレポートに、各チェックカテゴリの結果が表示されます。結果は、[Pass]、[Warning]、[Critical Warning] または [Fail] と表記されます。

結果が [Fail] となった場合、修正してからインストールを行ってください。[Critical Warning] や [Warning] の場合も、続行する前にできる限り解決することをお勧めします。

注記

ファイアウォールがセキュリティソフトウェアに制御されている場合、セキュリティ上の制限により、サイトプレパレーションツールがファイアウォールの設定値を読み取ることができません。このため、サイトプレパレーションツールのファイアウォールの設定の箇所には、ステータスが [Fail] として表示されます。

この場合は、ファイアウォールが無効になっていることを確認し、サイトプレパレーションツールのレポートに手作業でステータスを入力してください。

ソフトウェアのインストール

手順 4: システムコンフィグレーションチェッカーの実行

- 7 レポートの詳細を表示するには、次のリンクを選択してください: **[System Hardware Details]**、**[Operating System and Software Details]**、または **[Manual Verification Required]**。
- 8 レポートを保存するには、画面の上部左にある **[Save]** アイコンを選択します。
- 9 Agilent ソフトウェアシステムをインストールする PC を評価および検証するには、保存したレポートを電子メールで Agilent またはサービス関係者に送信してください。

手順 5: インストールウィザードの実行

使用許諾契約書の画面

- 1 OpenLab CDS EZChrom Edition Master Installer の画面から、**[インストール]** を選択します。
- 2 **OpenLab CDS EZChrom Edition** を選択します。
- 3 **[OpenLab CDS EZChrom Edition ウィザード]** が開きます。**[使用許諾契約書]** をお読みください。EZChrom Edition Master Installer メインメニューの**[リソース]** オプションでは、使用許諾契約書が印刷可能な PDF ファイルで提供されています。
- 4 **[規約に同意します]** を選択します。この条件に同意しない場合はインストールを開始できません。
- 5 **[次へ]** をクリックし、**[インストールフォルダー]** 画面に進みます。

インストールフォルダー画面

- 1 フォルダー名を入力するか、アプリケーションコンポーネントの保存先ディレクトリに移動します。フォルダー名は英語でなければなりません。

注記

ドライブのルートディレクトリへのインストールは、操作中に問題を引き起こす可能性があるため、サポートしていません。

- 2 インストールの一部としてインストールの確認を実行するには、**[ソフトウェアベリフィケーションの実行]** を選択します。Software Verification Tool では、使用するシステムが正しく構築およびインストールされ、設計仕様通りになっていることを示す文書が提供されます。Software Verification Tool は、後日実行することもできます (50 ページの「ソフトウェアインストール後のソフトウェアベリフィケーションの実行」を参照)。
- 3 **[次へ]** をクリックし、**[インストールの種類]** 画面に進みます。

インストールの種類画面

1 **【インストールの種類】** で **【スタンドアロンワークステーション】** を選択します。

2 **【次へ】** を選択して、**【OpenLab CDS EZChrom Edition】** 画面に進みます。

EZChrom インストール中に、OpenLab CDS プリントサーバーが自動的にインストールされます。プリントサーバーは、測定および再解析中の印刷を管理します。キューフォルダーに PDF ファイルがないかモニターし、このファイルをプリンターに送信します。

3 **【次へ】** をクリックし、**【追加項目】** 画面に進みます。

4 データシステムとして *OpenLab ECM* を使用する場合：

a リポジトリに応じて、**【OpenLab Server/OpenLab ECM XT Server】** または **【ECM 3.x Server】** オプションボタンを選択します。

b サーバー名を入力し、**【接続テスト ...】** ボタンを押します。

c 接続テストが実行され、機能している OpenLab ECM サーバーへのアクセスが確認されます。接続テストが正常に終了したら、**【接続成功】** のメッセージが表示されます。**【OK】** をクリックして続行します。接続テストに失敗した場合、**【追加項目】** の画面に戻ります。ここでは、**【次へ】** を選択してテストを再び実行できます。テストが正常に終了しない場合、以下の処理をしてください。

- 新しい OpenLab ECM サーバーを入力してテストを実行する。
- OpenLab ECM サーバーに接続できない場合は、社内サポートに連絡する。
- このボックスのチェックを解除して、OpenLab ECM なしでインストールを実行する。サーバーが決まってから、使用するデータシステムにサーバーを追加する。

d **【次へ】** をクリックして、**【GATE（監査証跡）設定】** 画面に進みます。

注記

監査証跡の機能を無効にするには、インストールを実行するか、手順を再度修復し、GATE オプションのチェックを外します。

5 **【GATE（監査証跡）設定】** 画面で、このワークステーションで監査証跡を自動的に有効にするかどうかを選択します。必要に応じて、**【すべての監査証跡を有効】** チェックボックスをオンにします。

監査証跡オプションを有効にすると、無効に戻すことはできません。

6 **【次へ】** をクリックし、**【サマリ】** 画面に進みます。

サマリ画面

- 1 これまでの手順で選択したインストール設定を確認します。必要に応じ、**[戻る]** でインストールの設定を変更したり、**[キャンセル]** でインストールをキャンセルしたりすることができます。
- 2 インストールを開始またはキャンセルする前に、インストールの設定を記載した XML ファイルを保存することができます。この XML ファイルは、スクリプト化インストールに使用することができます (36 ページの「[スクリプト化インストール](#)」を参照)。

XML ファイルを保存するには、**[サマリ]** 画面のファイル記号をクリックします。

- 3 **[開始]** を選択してインストールを開始します。
- 4 システムチェックが自動的に実行され、リストされているアクティビティに進みます。

[システムチェック合格] というメッセージが表示された場合、インストールは続行されます。

[システムチェックで問題が発生しました] というメッセージが表示された場合、以下のいずれかを選択できます。

- システムレポートを確認せずに、インストールを続行する。
- システムレポートを確認せずに、インストールを延期する。
- システムレポートを確認し、インストールを続行する。
- システムレポートを確認し、インストールを中断して問題を修正する。

注記

システムレポートを PDF ファイルとして表示するには、Adobe Reader がインストールされている必要があります (28 ページの「[Adobe PDF Reader のインストール](#)」を参照してください)。

- 5 インストールの一部としてインストールの確認を行う場合、**[ソフトウェアベリフィケーションレポート]** を選択します。レポートに不合格と表示されている場合、コンピューターの要件を確認し、データシステムを再インストールしてください。ソフトウェアベリフィケーションレポートの結果が「合格」となるまで、システムを使用しないでください。
- 6 **[次へ]** をクリックし、**[インストールした機能]** 画面に進みます。
- 7 **[完了]** をクリックし、インストールを終了します。

スクリプト化インストール

OpenLab CDS EZChrom Edition Master Installer では、スクリプト化インストールというコマンドラインモードのインストールをサポートしています。このモードでは、インストール、アップグレード、修復、アンインストールをサポートしています。スクリプト化インストールは、マニュアルで、または LANDesk や HP CM などのソフトウェア管理システムの一部として実行できます。対応するパラメータ (-q) を使用すると、スクリプト化インストールは自動で完了します。

XML としてエクスポート

EZChrom Edition Master Installer では、インストールパラメータを XML ファイルとしてエクスポートし、スクリプト化インストールで使えるようにする機能をサポートしています。

この機能は、アップグレードおよび修復でもサポートされています。しかし、エクスポートしたインストール用 XML ファイルはこれらの用途には適しません。スクリプトでの修復やアップグレードでは、それぞれの EZChrom Edition マスターインストーラウィザードを使用して、特定の XML ファイルを準備する必要があります。

- 1 OpenLab CDS EZChrom Edition インストールウィザードを起動します。
- 2 このマニュアルの「ソフトウェアのインストール」に記載された指示に従います。
- 3 **【サマリ】** 画面に進んだ後、右上隅にある  アイコンをクリックして XML にインストールパラメータをエクスポートします。ファイルを物理ドライブに保存します。

注記

インストールファイルと XML ファイルを同一のファイルパスに保存しないでください。

これで、XML ファイルがスクリプト化インストールに使用できるようになります。

パラメータおよびリターンコード

パラメータ

以下のパラメータを使用して、コマンドラインモードで `Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe` を呼び出すことができます。

- `-i`
インストール、アップグレード
- `-r`
修復
- `-u`
アンインストール
- `-q`
サイレントモード - インストールまたはアンインストールウィザードを表示しません。
- `-reboot`
正常にインストール、修復、アップグレード、またはアンインストールされた後、自動で再起動します。システムは、リターンコードが **0** または **17** の場合に再起動します。
システムが再起動する 10 分前に、コマンドプロンプトに警告メッセージが表示されます。さらに、再起動の 2 分前に **Windows** のダイアログボックスが開きます。

- *KeepComponents*

アンインストールプロセス用オプションのパラメータで、システムに残すべき共有コンポーネントが 1 つ以上含まれている場合があります。このパラメータを使用しない場合、すべての **EZChrom** コンポーネントがシステムから削除されます。特定の共有コンポーネントを保存しておくには、下表で対応する ID を二重引用符 (") で囲みます。複数の項目はカンマで区切ります。

コンポーネント名	ID
Software Verification Tool	IQT
Microsoft SQL Server	SQLServer
IO Library	IOLibraries

- *ConfigurationXML="<ConfigurationXMLFilePath>"*

XML ファイルには、インストール、アップグレード、または一部のトポロジの修復に必要な EZChrom Edition Master Installer のすべての入力が含まれます (36 ページの「[XML としてエクスポート](#)」参照)。

<ConfigurationXMLFilePath> は、正しいファイルパスおよび XML ファイル名で置換してください。

注記

等しい(=)の記号の前後には、スペース（空白）を入力しないでください。スクリプトでのインストールやアンインストールモードが、期待通りに動作しなくなります。

リターンコード

コマンドラインモードで、インストール、アンインストール、アップグレード、または修復を行うと、システムから次のような数値コードが返されます。

表 2 リターンコード

エラー / リターンコード	戻り値
Unknown (default)	-1
Success	0
CoreComponentFailure	1
NonCoreComponentFailure	2
TestConnectivityFailure	3
ExpectedWindowsInstallerNotInstalled (WI 4.5 missing)	4
ParameterMismatchError	5
CannotProceedWithFreshInstallation	6
CannotProceedWithUpgrade	7
CannotProceedWithUninstallation	8
CannotProceedWithRepair	9
CannotProceedWithReRegistration	10
ReRegistrationNotSupported	11
IncompleteTopologyFound	12
InvalidUNCPath	13
MissingInstallable	14
NotAStrongPassword	15
DowngradeNotSupported	16
RestartRequired	17
RegistryCleanupError	18
InvalidInputXML	19
InvalidMode	20

表 2 リターンコード

エラー / リターンコード	戻り値
SitePrepFailure	21
DatabaseConnectionFailed	22
DotNetFramework4NotInstalled	23
OLSSConnectionFailed	24
PDFReaderNotInstalled	25
AllComponentsInstallationFailed	26
SomeComponentsInstallationFailed	27
Failed	28
AddOnListEmpty	29
EULANotAccepted	30
ScriptedNotSupported	31

インストール、アップグレード、または修復

インストールモードでは、OpenLab CDS EZChrom Edition Master Installer は、.NET Framework がシステムにあるかどうかを確認します。システムにない場合は、自動的にインストールします。使用許諾契約書に同意する場合は、**[同意する]** を選択します。

EZChrom Edition Master Installer が、使用するシステムに既にインストールされている製品を確認します。インストール済みのコンポーネントに応じて、以下のいずれかのオプションが表示されます。

- 新規インストールを開始
- アップグレード
- 修復

必要なインストールファイルが見つからない場合、ログファイルにエントリが作成されます。コンポーネントのタイプに応じて、インストールは続行またはロールバックされます。このような状況では、対応するエラーコードが返されます。

準備

指定したフォルダーにすべてのディスクがコピーされている必要があります (30 ページの「[手順 3: 指定したフォルダーにインストールファイルをコピーしてインストールする \(オプション\)](#)」を参照)。スクリプト化インストールでは、この手順が必須です。

- 1 コマンドプロンプトまたは Power shell プロンプトの実行ファイルを右クリックし、管理者として実行します。
管理者として開始した場合のみ、スクリプト化インストールに対するリターンコードが発行されます。
- 2 ディスクを保存したドライブに移動します。

例 : C:\CDS_DVD

- 3 インストールを開始するには、次の構文で Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe を呼び出します。
Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe -i ConfigurationXML="<path to xml file>" -q -reboot

例 :

Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe -i ConfigurationXML="c:\settings\% ConfigurationXML.xml" -q -reboot

このコマンドでは、ユーザーインターフェイスを表示せずにインストールウィザードを起動し、自動的にシステムを再起動します。

アンインストール

- 1 コマンドプロンプトまたは **Power shell** プロンプトの実行ファイルを右クリックし、管理者として実行します。
管理者として開始した場合のみ、スクリプト化アンインストールに対するリターンコードが発行されます。
- 2 ディスクを保存したドライブに移動します。

例：C:\CDS_DVD

- 3 アンインストールを開始するには、次の構文で `Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe` を呼び出します。

Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe -u KeepComponents="コンポーネントのリスト" -q -reboot

例：

`Agilent.OpenLab.CDSInstaller.exe -u KeepComponents="IQT,IOLibraries" -q -reboot`

`KeepComponents` パラメータでは、システムに保存しておきたい共有コンポーネントを指定できます (37 ページの「[パラメータ](#)」を参照)。この例のコマンドでは、EZChrom コンポーネントである Software Verification Tool (IQT) と IO ライブラリ (IOLibraries) が保存されます。

ログおよびトレース

すべての例外、エラー、情報メッセージが次の場所にログされます。

- インストール、アップグレードまたは修復中：<ベースインストールディレクトリ>\Logs
- アンインストール中：<ユーザーのテンポラリディレクトリ>\<会社名>\Logs\<ログフォルダ>\<ウィザード名>.txt

追加ソフトウェアとドライバーのインストール

OpenLab CDS EZChrom Edition には、追加ソフトウェア（サードパーティ製の機器用のドライバーなど）のインストールを支援するウィザードが用意されています。このウィザードを開始するには、**[スタート] > [すべてのプログラム] > [Agilent Technologies] > [OpenLab] > [OpenLab 追加ソフトウェアとドライバー]** を選択します。ウィザードの指示に従って、必要なソフトウェアをインストールします。

ネットワークドライブの準備

追加ソフトウェアがネットワークドライブ上に置かれている場合は、ウィザードがそこにアクセスできるようにネットワークドライブを準備する必要があります。この準備を行わなければ、ウィザードの該当ドライブへのアクセスは Windows のセキュリティ機能により拒否されます。

- 1 ドライブにドライブ文字を割り当てます。

例えば、"**¥¥<machine-name>¥OpenLabCDS**" という共有パスを使用して、ドライブに **Z:** を割り当てます。

これにより、ログインしているユーザーに対してドライブの割り当てが行われます。

- 2 コマンドプロンプトを管理者モードで開き（管理者として実行し）、**net use** コマンドでドライブを割り当てます。

たとえば、

net use Z: "¥¥<マシン名>¥OpenLabCDS" などと入力します。

これにより、ローカル管理者アカウントに対してドライブの割り当てが行われます。割り当てられたドライブが、ログインユーザーと管理者の両方で表示され、ウィザード内で選択できるようになります。

サードパーティ製の機器をコンフィグレーションする

EZChrom エディションでのサードパーティ製機器のコンフィグレーションの詳細については、各ドライバーの文書を参照してください。

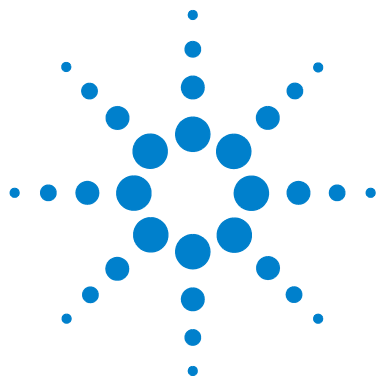
次の作業内容

ここまでのステップで、データシステムソフトウェアの基本インストールは完了しました。

このシステムには **60 日間**スタートアップライセンスが付属しており、期限の開始日はアプリケーションを初めて開始した日付となります。

ファイナルソフトウェアライセンスをリクエストおよびダウンロードします。システムにライセンスファイルを追加する方法については、このガイドの「ライセンス」を参照してください。

ファイナルソフトウェアライセンスを取得およびインストール後に、プロジェクト、ユーザー、および機器のコンフィグレーションを行い、エンドユーザーが操作できるようにデータシステムを準備します。これらはすべて [OpenLab Control Panel] から操作できます。



3 インストール後のタスク

この章では、インストール終了後に行うタスクについて説明します。



ウイルス対策プログラムの設定

『OpenLab CDS EZChrom Edition 要件ガイド』の「ファイアウォール設定」に記載されたファイアウォールポートを必ず開いてください。

注記

ウイルス対策プログラムを実行すると、コンピューターの動作とパフォーマンスが影響を受けることがあります。ウイルススキャナによっては、OpenLab CDS EZChrom Edition と併用すると問題が生じる可能性があります。Symantec Endpoint Protection 12.x および Microsoft Security Essentials でテスト済みです。

注記

Symantec Endpoint Protection では、Aggressive Scan Mode を使用しないでください。ウイルスが誤検出される場合があります。

OpenLab ソフトウェアが正しく機能するには、ウイルス対策ソフトウェアによるリアルタイム保護から、以下のフォルダーを除外する必要があります。これらのフォルダーは、機器が待機状態で、データを測定していない間だけスキャンされるようにする必要があります。除外するフォルダーの設定方法は、使用しているウイルス対策ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

- データを保存するために使用するパス
- C:\programdata\chromatography system\recovery data
- C:\programdata\agilent
- %programfiles%\agilent
- %programfiles(x86)%\agilent
- %programfiles%\common files\agilent
- %programfiles(x86)%\common files\agilent
- %programfiles%\agilent technologies
- %programfiles(x86)%\agilent technologies
- %programfiles%\common files\agilent technologies
- %programfiles(x86)%\common files\agilent technologies
- %programfiles%\common files\agilent shared
- %programfiles(x86)%\common files\agilent shared

プロセス	ディレクトリ	ファイル名
ECM による アップロードと ダウンロード (該当する場合)	Windows ユーザーの場合は %temp% (ユーザーの temp ディレクトリ)	*.sszip
標準レポート	Windows ユーザーの場合は %temp% (ユーザーの temp ディレクトリ)	~p3d*.tmp ~job*.tmp Hpspl00.que
CDS インテリジェント レポート	%LOCALAPPDATA% %APPDATA% %PROGRAMDATA%	次のファイル : • Agilent • Agilent Technologies • Agilent_Technologies_Inc • IsolatedStorage • TEMP 例 : C:\Users\¥xxxxx¥ AppData¥Local¥Agilent Technologies¥Intelligent Reporting¥RawDataFileCache

使用するウィルス対策ソフトウェアに、プログラムや実行可能ファイルの実行を禁止する設定がある場合は、次のプログラムファイルの実行禁止を設定していないことを確認してください。これらのプログラムファイルが格納されているフォルダーを見つけるには、Windows の検索機能を使ってください。

- agilentiolibriariesservice.exe
- apg_top.exe
- iprocsvr.exe
- iproc8491.exe
- msinsctl.exe
- httpdmsd.exe
- epcsetup.exe

注記

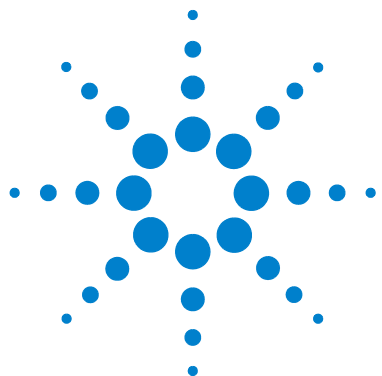
システムの設定によっては、上記のフォルダーやファイルが存在しない場合があります。

オペレーティングシステムでのプリントサーバーの セットアップ

- 1 **【サービス】** の **【Agilent OpenLab CDS Print Server】** を参照します。
- 2 **【ログオン】** ユーザーを、プリンタへのアクセス権を持つユーザーに変更します。
- 3 **【サービス】** で **【Agilent OpenLab CDS Print Server】** にログインしたユーザーとしてオペレーティングシステムにログインします。
- 4 このユーザーとしてログインしている間にプリンタをインストールします。
- 5 ローカルマシンにキューフォルダーを作成します。 **【Agilent OpenLab CDS Print Server】** サービスにログインしたユーザーは、このロケーションへのフルアクセス権を持っている必要があります。これは、プリンターサーバーが PDF ファイルをモニターするフォルダーです。すべてのプリンターに独自のキューフォルダーを持つように設定してください。

注記

各キューフォルダー内には quarantine フォルダーがあり、プリンターへの接続に失敗した場合、この quarantine フォルダーに印刷ジョブが追加されます。プリンターへの接続が回復したら、印刷ジョブをマニュアルでコピーしてキューフォルダーに戻します。デフォルトでは、ファイルは quarantine フォルダーから 24 時間後に削除されます。



4 オプションの手順

この章では、Software Verification Tool に関する情報、およびその他の
便利な手順に関する情報を提供します。



ソフトウェアインストール後のソフトウェア ベリフィケーションの実行

Software Verification Tool では、使用するシステムが正しく構築およびインストールされ、設計仕様通りになっていることを示す文書が提供されます。

- 1 Windows オペレーティングシステムを使用して、**[スタート] > [すべてのプログラム] > [Agilent Technologies] > [Software Verification Tool]** を選択します。

- 2 **[Qualify]** を選択します。

アプリケーションが実行され、ソフトウェアベリフィケーションレポートが作成されます。

- 3 レポートに不合格と表示されている場合、コンピューターの要件を確認し、データシステムを再インストールしてください。

ソフトウェアベリフィケーションレポートの結果が「合格」となるまで、システムを使用しないでください。

AFS（拡張ファイルセキュリティ）の コンフィグレーション

AFS は、OpenLab CDS EZChrom Edition ネットワークシステム用のコンフィグレーションオプションです。データシステム外部でプロジェクトデータへの無許可のアクセスを防止するために、エンタープライズパス上に強化されたセキュリティを提供します。この構成では、適切な Windows 共有およびセキュリティ設定を行い、定義されたグループのみが Windows Explorer からエンタープライズデータにアクセスできるようにします。また、Shared Services 認証プロバイダーとして Windows ドメインを使用するようシステムが設定されている場合にのみ行えます。

AFS（拡張ファイルセキュリティ）の有効化

- 1 システムを準備します。
 - a Windows ドメインを認証プロバイダーとして使用するようシステムが設定されていることを確認します。（オンラインヘルプの **「セキュリティおよびストレージの設定」** > **「認証プロバイダーおよび保存システムの設定」** を参照。）
 - b 定義済みのエンタープライズパスの直下にあるストレージパスを使用するようシステムが設定されていることを確認します。
 - c データシステム外部のエンタープライズパスへのアクセス権を持つ Windows ドメイングループを作成または定義します。
 - d 上記のグループのメンバーであるユーザーを最低 2 人定義します。

注記

有効期限のないパスワードを推奨します。実行中のシステムでのパスワード変更の詳細については、『*OpenLab CDS EZChrom Edition 管理者用ガイド*』の「EZChrom の管理」の章を参照してください。

- e **「ローカルセキュリティポリシー」** > **「ローカルポリシー」** > **「ユーザー権限の割り当て」** で、ユーザーまたはグループに以下の権限を割り当てます。
 - ・ オペレーティングシステムの一部として機能
 - ・ ローカルログオンを許可
 - f OpenLab CDS EZChrom Edition システムへのすべての接続を終了します（クライアント、機器実行、コントロールパネル）。
 - g 現在の状態でエンタープライズパスを編集する管理者権限を持つドメインユーザーのログイン資格情報を取得します。
 - h ドメイン認証の設定時に定義された、OpenLab Control Panel の管理者ログイン資格情報を取得します。
- 2 OpenLab CDS EZChrom Edition クライアントで、ソフトウェアがインストールされたディレクトリに移動します。
(デフォルト : C:\Program Files\Agilent Technologies\EZChrom)

オプションの手順

AFS（拡張ファイルセキュリティ）のコンフィグレーション

- 3 EnterpriseConfig.exe を起動します。
- 4 **[エンタープライズ設定ログイン]** ダイアログが表示されます。
 - a **OpenLab Control Panel ログイン** セクションで、OpenLab Control Panel 管理者のユーザー名、パスワード、およびドメインを入力します。
 - b **[Windows ユーザー情報]** セクションで、エンタープライズパスの編集権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。
 - ドメインユーザーアカウントの場合、**Windows** ドメインコントローラを選択し、ドメイン名を入力します（推奨）。
 - ローカル PC アカウントの場合は、**Windows ローカル PC** を選択します。これは、EnterpriseConfig.exe プログラムが実行中のマシンのローカルアカウントにしてください。
 - c **[OK]** をクリックします。
- 5 システムが上記の資格情報を処理します。資格情報が有効な場合、警告が表示され、この処理が完了したら取り消すことはできないことが伝えられます。

続行する準備が完了している場合、**[OK]** をクリックします。
- 6 **[エンタープライズ サービスアカウント]** ダイアログが表示されます。
 - a AFS グループのメンバーとして定義するユーザーのユーザー名、パスワード、およびドメインを入力します。
 - b AFS の制約下でエンタープライズパスへのアクセス権を持つグループ名を入力します。
 - c **[OK]** をクリックします。

ワークステーションの ネットワークワークステーションへの転換

ネットワークワークステーションでは、独立した OpenLab Shared Services Server を使用してシステムを制御します。任意のネットワークワークステーションから、OpenLab Shared Services によって提供されるすべての情報にアクセスできます。例えば、利用できる機器や、その機器の現在のステータス（オンライン、オフライン、エラー、実行中、ノットレディなど）を、それぞれのワークステーションから確認することができます。ライセンスとユーザーアカウントも OpenLab Shared Services Server 上で一元管理されます。

注記

- OpenLab Shared Services Server を先にインストールしておく必要があります。『ネットワーク対応および分散システムのインストールおよびコンフィグレーションガイド』（Disk 1 収録の CDS_NWSDS-Installation.pdf）を参照してください。
- ワークステーションと OpenLab Shared Services Server のバージョンが同じになっているか確認してください。バージョンが異なっている場合は、転換を実行する前にワークステーションをアップグレードします。75 ページの「EZChrom エディションの 最新バージョンへのアップグレード」を参照してください。
アップグレードのためシステムにバージョンが混在している間の一時的なサポートについては、『OpenLab CDS EZChrom Edition 管理ガイド』（ディスク 1 収録の CDS_Admin.pdf）を参照してください。

注意

同じ名前を持つ複数の機器の競合

ワークステーション上で使用されている機器が、ネットワーク上に既に存在する名前を持っていないかチェックします。これに該当する場合、または不明な場合：

- 転換を開始する前に、該当する機器のデータ、メソッド、およびシーケンスをローカルのバックアップフォルダーにコピーします。次に、ワークステーションからその機器を削除します。
- 転換を行った後、新しい機器をコンフィグレーションし、ローカルフォルダーのデータを元の場所にコピーします。

オプションの手順

AFS（拡張ファイルセキュリティ）のコンフィグレーション

- 1 OpenLab CDS Master Installer の画面から、**【メンテナンス】** を選択します。
- 2 **【OpenLAB スタンドアロンワークステーションをネットワークワークステーションに変換】** を選択します。
- 3 サーバー名と、サーバーが使用する認証サービスを入力します。
サーバーが認証を必要とする場合は、OpenLab Shared Services 管理者の資格情報の入力を求められます。
- 4 変換を開始します。
すべての機器が OpenLab Shared Services Server に登録されます。

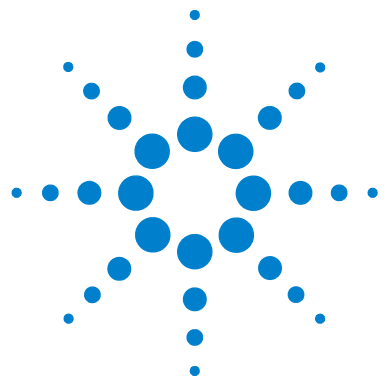
オフラインマシン上でのパフォーマンスの向上

OpenLab CDS EZChrom Edition を実行するコンピューターは、インターネットに接続されていないとパフォーマンスが低下する場合があります。

Windows オペレーティングシステムには、セキュアソフトウェアの使用時に Windows セキュリティ証明書をすべて更新するために、常にオンライン接続を検索するルーチンが組み込まれています。

この問題を解決するには、すべてのワークステーション、クライアント、AIC、およびサーバー上で以下のシステム設定を使用してください。

- 1 Internet Explorer を開き、[ツール] > [インターネットオプション] を選択します。[詳細設定] タブで、以下のチェックボックスをオフにします。
 - [セキュリティ] > [発行元証明書の取り消しを確認する]
 - [セキュリティ] > [サーバーの証明書失効を確認する]
- 2 以下のレジストリキーを変更します。
 - 32 ビットおよび 64 ビットシステム：
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Microsoft\SystemCertificates\AuthRoot]
"DisableRootAutoUpdate"=dword:00000001
 - 64 ビットシステム：
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Policies\Microsoft\SystemCertificates\AuthRoot]
"DisableRootAutoUpdate"=dword:00000001
- 3 ルート証明書をオフにしたことを記録します。これによりユーザーが他のアプリケーションをインストールするのを防止します。



5 ライセンス

この章では、ライセンスを取得してインストールする方法に関する情報を記載しています。



OpenLab CDS EZChrom Edition ライセンスについて

ライセンスタイプ

ライセンスファイルは、製品、機器およびアドオンのライセンス（またはアクティベーションキー）のコレクションであり、OpenLab CDS システムにインストールされます。OpenLab ワークステーション PC、またはクライアント / サーバーシステムの OpenLab Server の両方がライセンスサーバーとして機能します。

ライセンスファイル内のライセンスまたはアクティベーションキーは、共有またはカウントのいずれかになります。

- 共有ライセンス – システムコンピューターおよびその他のコンポーネントでは、共有、またはアドオンライセンスを使用できます。– これは、コアライセンスを共有しているためです。
- カウントライセンス – このライセンスは、OpenLab CDS EZChrom Edition のフローティングライセンス方針の一部であり、どのコンポーネントにも恒久的に割り当てられるものではありません。その代わり、AIC および機器などのコンポーネントが起動している間、これらに自動的に割り当てられます。このライセンスは、コンポーネントが終了するときに自動的に返却されます。ライセンス管理プログラムでは、ライセンスの発行や取得を管理します。

この場合は、コンポーネントが実行中にのみライセンスが使用されます。インストールする各コンポーネントにではなく、同時に実行するすべてのコンポーネントに十分な数だけのライセンスを購入すればよいことになります。

システムのスタートアップライセンスでは、インストール後 60 日間 OpenLab CDS を実行できます。60 日の期間以降にデータシステムソフトウェアを実行するためには、コアライセンスファイルをインストールする必要があります。

ライセンスファイル

ライセンスファイルには、ソフトウェアライセンスが含まれます。このファイルをワークステーションにインストールします。ライセンスファイルはこのコンピュータに固定されており、**SubscribeNet** でライセンスを再作成せずに別のワークステーションに移動することはできません。

ライセンスファイルの情報によって、お使いのシステムで同時に使用可能な機器およびその他のオプションの数が定義されます。

ライセンスを維持管理する最も効率的な方法は、インターネットを使用することです。製品用のファイナルライセンスの作成、ダウンロードおよびインストールを行うには、以下が必要です。

- **Software Entitlement Certificate** が入った薄紫色の封筒で提供される認証コードラベル。
- **Software Entitlement Certificate** に記載されている **SubscribeNet** の URL。

製品用に薄紫色の封筒を受け取っていない場合、販売店または弊社のサポート窓口にお問い合わせください。

ライセンスの取得

SubscribeNet でのライセンスの取得

インターネットにアクセスできる場合、次の手順で OpenLab CDS EZChrom Edition システム用のライセンスを作成し、ダウンロードしてください。

インターネットにアクセスできない場合は、62 ページの「[ライセンスを入手するためのその他の方法](#)」のセクションを参照してください。

SubscribeNet にまだ登録のないユーザーは、[新規ユーザー] セクションに従ってください。

SubscribeNet に登録済みのユーザーは、[*SubscribeNet* で登録済みのユーザー] セクションを参照してください。

新規ユーザー

- 1 インターネットにアクセスできるコンピュータで、Software Entitlement Certificate に記載された URL をインターネットブラウザに入力します。
- 2 ログインページ一番下にある **[click here to register]** をクリックします。
- 3 登録ページでは、[Authorization Code] と [Profile Information] を入力します（必須入力のフィールドにはアスタリスク（*）の印が付いています）。ここで入力する電子メールアドレスが、ログイン ID になります。
- 4 **[Submit]** をクリックします。アカウント名が作成されると、それが表示されます。

SubscribeNet からお客様に、ログイン ID とパスワードが記載された「ようこそ」電子メールが送信されます。

- 5 ログイン ID とパスワードで SubscribeNet にログインします。
ログインすると、オンラインのユーザーマニュアルリンクを使用して、質問などに対するヘルプにアクセスすることができます。
- 6 左側のナビゲーションバーから、**[Generate or View licenses]** を選択します。
- 7 新規にライセンスを作成するメッセージが表示されたらそれに従います。

ライセンス

ライセンスの取得

コンピューターの **HOST NAME** (ホスト名) を入力するよう要求されます。入力するホスト名は、コントロールパネルが実行されているコンピューターのネットワーク名と同一にする必要があります。ホスト名には、DNS サフィックス (*domain.com*) リファレンスを含めないでください。

作業中に、ライセンスサーバーの **MAC** アドレスを入力する必要があります。ワークステーションの場合は、ローカルコンピューターの **MAC** アドレスです。クライアント / サーバーシステムの場合は、サーバーの **MAC** アドレスになります。

OpenLab CDS EZChrom Edition がインストール済みのコンピューターから **MAC** アドレスを取得するには、コントロールパネルを開き、**[管理] > [ライセンス]** セクションを参照してください。**[MAC アドレスのコピー]** または **[MAC アドレスの保存]** 機能を使用して、ライセンス作成のために **MAC** アドレスを入手します。

注記

ライセンスをインストールした後でコンピューター名またはドメインリファレンスに変更された場合、ライセンスを削除してください。新しいライセンスを SubscribeNet で作成し、ダウンロード、およびインストールする必要があります。

注記

ライセンス作成時に使用した **MAC** アドレスを持つネットワークアダプタがマシンから外されると、お使いのライセンスは有効ではなくなります。新しいライセンスは、ライセンスサーバー上で現在利用可能な **MAC** アドレスを使用して作成する必要があります。

- 8 ライセンスが作成されたら、詳細を表示して、**[Download License File]** をクリックします。お使いのコンピューターおよびバックアップロケーション (ポータブル記憶装置など) にライセンスファイルを保存します。

ライセンスファイルの再作成や、新規承認コードの追加、またはシステムへのライセンス追加作成のために、Agilent SubscribeNet サイトを再び訪れる際に、ログイン ID とパスワードを使用します。

SubscribeNet で登録済みのユーザー

- 1 電子メールアドレスとパスワードを使用して **SubscribeNet** にログインします。
- 2 複数のアカウントがある場合は、**Authorization Code**（認証コード）に関連している **SubscribeNet** アカウントを選択します。
- 3 **SubscribeNet** のナビゲーションウィンドウから、**[Register Authorization Code]** を選択します。
このようにして、新しい **Authorization Code** を入力し、新しいライセンスを使用できるようにします。
- 4 この前に記載されている手順（「新規ユーザー」）のステップ 6 から 8 に従い、新しいライセンスの作成または表示を行います。

ライセンスを入手するためのその他の方法

ライセンスを作成できない場合は、お近くの **Agilent** サポートオフィスにお問い合わせください。担当者が **OpenLab CDS EZChrom Edition** ライセンス申請書を送信する方法をお伝えします。

オフラインライセンス

お客様のラボでインターネット接続が利用できない場合：

お客様自身またはローカルオンサイトサービスエンジニアが必要な情報を収集し、**Agilent** がお客様のためにライセンスアカウントを作成できるようになります。電話でのサポートについては、販売・サービスの電話番号までお問い合わせください。様々な国での電話番号リストは、付録に記載されています。

Agilent ライセンスサポートに必要な顧客情報：

お客様の代理でライセンスアカウントを作成する場合は、次の情報を **Agilent** に提出する必要があります。

1 アカウント情報：

アカウント名は、カンマで区切った会社名と実験室名になります。ここで提供される社員情報は、必要に応じて、システムへの今後のアクセスのために、お客様のアカウントの最初の管理者を指定するために使用されます。迅速なサービスをご提供できるよう、**Agilent** 販売・サービスセンターにご連絡いただく前に、次の情報を用意してください。

- 会社名
- 実験室 / 部門名
- 名
- 姓
- 電子メールアドレス
- 役職名
- 電話番号
- 国名、都道府県名を含めた住所

2 Authorization Code:

Authorization Code は、薄紫色の封筒に入っているラベルに記載された英数字のコードです。複数のコードを受け取られた場合は、ご注文いただいたライセンスをすべてお客様のアカウントに付与できるよう、すべてのコードをご提示ください。

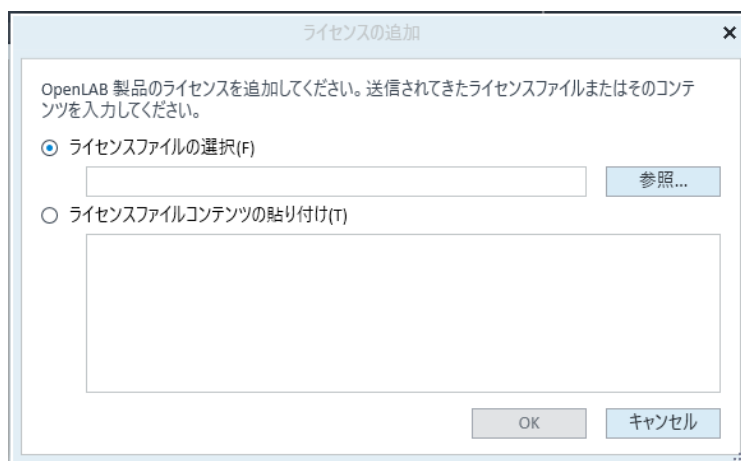
3 ライセンスの受信：

上記の情報をご提供いただいた後、**Agilent** ではお客様の代理で **SubscribeNet** 経由でライセンスを作成します。ライセンスファイルは、発送先アドレスに送付されるか（**CD** で）、または **FSE** が直接お届けします（通常は **USB** メディアを使用）。ライセンスを受け取ったら、次のセクション「ライセンスのインストール」に従って **CDS** システムでライセンスのインストールを行ってください。

ライセンスのインストール

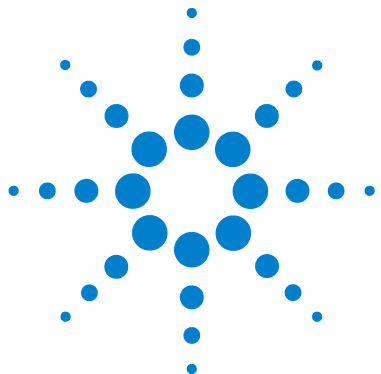
ライセンスはコントロールパネルを使用してシステムに追加する必要があります。

- 1 デスクトップの **【コントロールパネル】** ショートカットをダブルクリックするか、**【スタート】 > 【すべてのプログラム】 > 【Agilent Technologies】 > 【OpenLab Shared Services】 > 【コントロールパネル】** の順に選択します。
- 2 **【管理】 > 【ライセンス】** の順に選択します。
- 3 リボン内の **【ライセンスの追加】**  をクリックします。



- 4 次のようにライセンスのインストールを選択します。
 - **【ライセンスファイルの選択】** オプションを使用して、**SubscribeNet** のライセンス作成プロセスで保存したライセンスファイル (.lic) を参照して開きます。
 - **【ライセンスファイルコンテンツの貼り付け】** オプションを選択し、受信したテキストファイルのライセンステキストを、所定のフィールドにコピーします。
- 5 **【OK】** をクリックします。

コントロールパネルの **【管理】** インターフェイスでは、インストールしたライセンスのステータスが表示されます。



6

コントロールパネルでの OpenLab CDS EZChrom Edition の設定

この章では、ソフトウェアのインストール後の初期設定手順について説明します。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。



認証

認証プロバイダー

認証プロバイダーは、システムにログインするユーザーを識別証明するために使用されます。OpenLab CDS Shared Services は以下の認証プロバイダーをサポートします。

- なし

このモードでは、OpenLab Control Panel にアクセスする際にログイン画面が表示されません。ユーザーは、セキュリティ設定がされていないアプリケーションに自動的にログインします。ログエントリには「システム」として記録されます。認証プロバイダーを【なし】に設定すると、OpenLab Control Panel でセキュリティポリシーおよびユーザー管理ノードが非表示となります。

注記

認証プロバイダーが【なし】の場合、アクティビティログには一般的な【システム】オペレータが表示され、追加 ID はありません。規制環境の場合、これはお勧めしません。

- 内部

このモードでは、ユーザーの資格情報が作成され、OpenLab CDS Shared Services データベースに保存されます。その他のユーザーを設定する前に、OpenLab CDS Shared Services の管理者アカウントを作成するよう促されます。これは、システム内で新しいユーザーを作成できる唯一のモードです。

- Windows ドメイン

既存の Windows ユーザーを OpenLab CDS Shared Services にインポートします。この認証は、Windows Active Directory ドメイン、または Enterprise 内の NT 4.0 ドメインで行われます。Shared Services は、マッピングされたユーザーの ID およびパスワードのみを使用します。OpenLab CDS EZChrom Edition のロールおよび権限は、そのまま Shared Services でコンフィグレーションが行えます。

- **ECM**

ECM モードでは、OpenLab ECM システムが認証を行います。OpenLab Control Panel を起動すると、ユーザー確認のための ECM 資格情報の入力が必要になります。既存 ECM ユーザーを Shared Services の管理者として選択しなければなりません。検索機能を利用して特定の ECM ユーザーを見つけることができます。Shared Services は、マッピングされたユーザーの ID およびパスワードのみを使用します。OpenLab CDS EZChrom Edition のロールおよび権限は、Shared Services でコンフィグレーションが行えます。

認証の設定

- 1 コントロールパネルを起動します。
- 2 **[管理]** に移動します。
- 3 ナビゲーションウィンドウの **[システムコンフィグレーション]** を選択します。
- 4 リボン内の **[システム設定の編集]** をクリックします。
- 5 ドロップダウンリストから必要な認証プロバイダーを選択し、**[次へ]** をクリックします。
- 6 ユーザー資格情報を入力します。
 - a **[Windows ドメイン]** の場合：[ドメインユーザーを使用して ...] チェックボックスをオンにし、ユーザーとグループの情報を取得する権限を持つユーザー資格情報を入力します。**[アカウントの選択]** をクリックして**[ユーザーの検索]** ダイアログを開き、管理者アカウントを選択します。
 - b **[内部]** の場合：**[アカウントの作成]** をクリックして、OpenLab CDS EZChrom Edition の新規管理者アカウントを作成します。
- 7 設定を確認します。完了すると、コントロールパネルが再起動します。

セキュリティポリシーの設定

特定の基準に準拠する必要がある場合、必要に応じてセキュリティポリシーを調整してください。

認証プロバイダーが **【内部】** である場合、すべてのパラメータをコントロールパネルで設定できます。外部の認証プロバイダーを使用すると、コントロールパネルでアプリケーションをロックするまでの時間のみを設定できますが、その他のパラメータはすべて外部システムによって定義されます。

- 1 コントロールパネルを起動し、**【管理】** へ移動します。
- 2 ナビゲーションウィンドウの **【セキュリティポリシー】** を選択します。
- 3 リボン内の **【セキュリティポリシーの編集】** をクリックします。

ユーザー / グループ / ロールの設定

内部認証を使用する場合、OpenLab Control Panel で必要なユーザーを作成します。Windows ドメインなどの外部認証システムを使用する場合、ユーザーをインポートします。

ユーザーが表示または実行できる項目を定義するために、OpenLab CDS EZChrom Edition では定義済みのロールを提供しています。また固有のロールを定義することも可能です。各ロールには、多くの特定の権限が定義されています。

1 人のユーザーが複数のグループメンバーになる場合もあります。各グループに対して 1 つ以上の特定のロールを割り当てる必要があります。1 人のユーザーに対してロールを割り当てることもできますが、簡素化のためロールの割り当てはグループレベルで行うことを推奨します。グループのすべてのメンバーには、そのグループのすべてのロールが自動的に割り当てられます。

- 1 コントロールパネルを起動し、**【管理】** へ移動します。
- 2 ナビゲーションウィンドウの **【ユーザー】**、**【グループ】**、または **【ロール】** を選択します。
- 3 新規項目を作成するか、既存の項目を編集します。

ユーザーの作成またはインポート

ロールと権限を管理するには、OpenLab Control Panel を使用します。ユーザーにさまざまなアクセスを提供するため、カスタムロールを作成したり、事前に定義されたロールを割り当てたりすることができます。

ユーザーの追加（内部認証のみ）

- 1 ナビゲーションウィンドウから **【管理】 > 【ユーザー】** をクリックします。
- 2 **【ユーザーの作成】** ダイアログで、関連するパラメータを入力します。
 - ・ 新規ユーザーの名前とパスワードを入力します。
 - ・ デフォルトでは、新規ユーザーは次回ログイン時にパスワードを変更する必要があります。パスワードを変更する必要がない場合は、**【ユーザーは次回ログイン時にパスワードの変更が必要】** チェックボックスをオフにします。
 - ・ **【ロールメンバーシップ】** タブで、ユーザーを適切なロールに割り当てます。デフォルトロールを使用するか、コントロールパネルの **【管理】 > 【ロール】** で独自のロールを作成できます。

- 3 **【OK】** をクリックします。

ユーザーのインポート

システムに Windows ドメインユーザーを追加するには、ユーザーとグループ情報をドメインから取得する権限を持っている必要があります。

- 1 ナビゲーションウィンドウから **【管理】 > 【ユーザー】** をクリックします。
- 2 リボン内の **【インポート】** をクリックします。
- 3 **【ユーザーの検索】** ダイアログボックスに、ユーザー名の検索文字列を入力します。
- 4 **【検索結果】** リストから、インポートするユーザーを選択し、**【追加】** をクリックします。選択したユーザーが **【選択されたユーザー】** リストに追加されます。
- 5 ステップ 2 から 4 を繰り返して、インポートするすべてのユーザー名を **【選択されたユーザー】** リストに追加し、**【OK】** をクリックします。

グループ

外部認証プロバイダーを利用する場合、外部システムの既存グループをインポートするか、新しく内部グループを作成することができます。マッピングおよび作成できるグループの数に制限はありません。

外部システムまたはコントロールパネルのグループにユーザーを割り当てます。OpenLab CDS EZChrom Edition にのみ関係のある追加のユーザー割り当てが必要な場合には、コントロールパネルに作成します。ユーザー割り当てが必要でない場合は、グループをインポートして、そのグループに必要なロールを割り当てるだけで十分です。

グループを削除またはマッピング解除する場合、そのグループのメンバーであるユーザーに対する変更は行われません。

ロールと権限

ロールは権限をユーザーまたはユーザーグループに割り当てるために使用され、全体的にまたは特定の機器、ロケーションごとに割り当てることが可能です。システムには定義済みロールのリストが、システムインストールの一部としてインストールされています（**機器管理者**、**機器ユーザー**、**すべて**など）。各ロールには、固有の権限が割り当てられています。

権限は、主要な 3 つのロールタイプ（プロジェクトロール、機器ロール、管理ロール）にグループ化されています。ロールに権限を割り当てる場合、まず必要なロールタイプを選択してからそのロールタイプに関連する権限を選択します。各ロールは、指定された 1 つのロールタイプに対応する権限だけを有します。定義済みロールの**すべて**は唯一の例外で、このロールはすべてのロールタイプのすべての権限を有します。ユーザーまたはグループがシステム機能を実行するためには、複数のロールが必要な場合があります。例えば、**化学者**というロールを持つユーザーには、機器を実行する権限を持つ**機器ユーザー**といった別のロールが必要な場合があります。

コントロールパネルにさまざまなロケーションからなるツリーを作成し、該当するロケーションに機器を追加することが可能です。それぞれの機器や機器グループに、異なった機器ロールを割り当てることができます（72 ページの「**個別機器に関する特定のロール**」を参照）。たとえば、ユーザーが 1 台の機器で**機器管理者**ロールを持ち、別の機器で**機器ユーザー**ロールを持っている場合があります。

コントロールパネルでさまざまなプロジェクトまたはプロジェクトグループからなるツリーを作成し、さまざまなプロジェクトにさまざまなプロジェクトロールを割り当てることもできます（72 ページの「個別機器に関する特定のロール」を参照）。たとえば、ユーザーが 1 つのプロジェクトで**プロジェクト管理者**のロールを持ち、コントロールパネルで設定を管理することができます。もう 1 つのプロジェクトでは、このユーザーはプロジェクトの内容を編集することはできても、プロジェクトの設定を変更することはできないロールになっている場合があります。

表 3 ロールタイプの説明

ロールタイプ	説明
管理者権限	これらの権限はユーザーまたはグループに対して全体的に割り当てられ、機器、ロケーションレベルで変更することはできません。代表的な管理者権限に、 バックアップとリストア 、 セキュリティの管理 、 プリンタの管理 などがあります。
機器権限	これらの権限は、全体的に、または機器、ロケーションレベルで割り当てることが可能です。機器に関する権限には、 機器またはロケーションの表示 や 機器の実行 などがあります。コントロールパネルのロケーションと機器ツリーを閲覧するには、全体のレベルで 機器またはロケーションの表示 の権限が必要となります。
プロジェクト権限	さまざまなレベルのデータへのアクセスまたはその変更を行うための権限。これらの権限はグローバルに、またはプロジェクトレベルで割り当てることが可能です。

個別機器に関する特定のロール

デフォルトでは、ユーザーまたはグループのロールはすべてのロケーションまたは機器に対してグローバルに設定されています。ロールの設定はそれぞれ、ルートノードの**機器**から継承されます。1つの特定のノードでユーザーまたはグループに異なったロールを割り当てるには、必要なノードの**権限の編集**ダイアログで**親からの権限の継承**チェックボックスをオフにします。その後、特定のノードについてのみ有効となる異なるロールを割り当てることが可能になります。

個々のロケーションまたは機器で**機器**のロールを割り当てるができます。

管理ロールは、常にグローバルに設定されます。

初期プロジェクトの設定

- 1 コントロールパネルを起動し、**【プロジェクト】**へ移動します。
- 2 プロジェクトを作成および設定します。
[EZChrom] タブで、
 - メソッド、シーケンス、結果、シーケンステンプレートおよびレポートテンプレートのロケーションを入力します。
 - そのプロジェクトに対して必要な監査証跡設定を行います。

詳細は、コントロールパネルのオンラインヘルプを参照してください。

初期機器のコンフィグレーション

- 1 OpenLab Control Panel を起動し、**[機器]** へ移動します。
- 2 リボン内の **[作成]** をクリックして、新しい機器を作成します。
- 3 機器の情報を入力し、**[OK]** をクリックします。

注記

Agilent 1120 および 1220 機器は、機器タイプ **Agilent Compact LC** でのみコンフィグレーションできます。これらは選択された他の LC モジュールと組み合わせることができます。詳細については、『サポートする機器とファームウェアガイド』(CDS_SupportedInstFirmware.pdf) を参照してください。

1120 および 1220 機器用のドライバーは機器に付属しており、デフォルトでは OpenLab CDS EZChrom Edition には含まれていません。

- 3 新しい機器を選択し、リボン内の **[機器のコンフィグレーション]** をクリックします。
- 4 自動コンフィグレーションを使用して機器をコンフィグレーションすることを推奨します。モジュールを選択し、**[自動コンフィグレーション]** をクリックして、**[検出器の数]** および **[ポンプの数]** を入力します。必要に応じて **[オートサンブラ]** を選択します。

あるいは、マニュアルでデバイスをコンフィグレーションします。

- a **[選択可能なモジュール]** からモジュールを選択し、矢印をクリックして、**[使用するモジュール]** へ移動します。
 - b **[使用するモジュール]** をダブルクリックして、そのモジュールに関するダイアログボックスを開きます。
 - c **[オプション]** を選択します。
 - d **[コンフィグレーションオプション]** ダイアログボックスで、次の一般的なオプションから選択します: システムスータビリティ、SEC、PDA、およびベースラインチェック。
- 5 設定を確認します。

サポートされる機器接続数の詳細については、『要件ガイド』を参照してください。

OpenLab でのプリントサーバーのコンフィグレーション

Agilent OpenLab CDS プリントサーバーをインストールした場合：

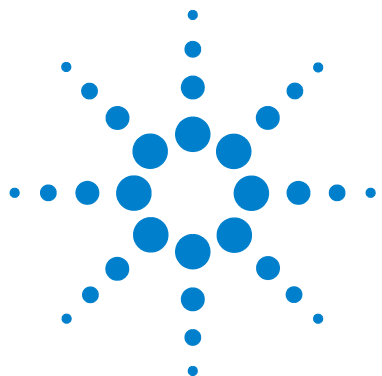
- 1 コントロールパネルにログインし、**【管理】** の **【プリンタ】** アイコンをクリックします。
- 2 **【プリンタ】** メニューの **【プリンタの追加】** をクリックします。
- 3 **【モニターの追加】** ボタンをクリックします。
- 4 **【新規プリンターの追加】** ダイアログで、以下を追加します。
 - **モニターフォルダー**：UNC またはキューフォルダーへのローカルパスを入力します（48 ページの「[オペレーティングシステムでのプリントサーバーのセットアップ](#)」を参照）。
 - **プリンタ**：オペレーティングシステムにインストールするプリンタを選択します。
 - **表示名**：プリンターモニターの表示名を入力します。
 - **コメント**：コメントを入力します。
- 5 **【OK】** をクリックします。
- 6 プリントサーバーで、追加したプリンターを選択します。
- 7 **【モニターオン】** をクリックし、このプリンタに対して **【モニター設定】** を **【はい】** に設定します。これにより、プリントサーバーがキューフォルダーをモニターできるようになります。

【モニター設定】 を **【いいえ】** に設定すると、プリントサーバーがこのフォルダーをモニターせずに、プリンタにファイルを送信します。
- 8 プリントサーバーのステータスが **【実行中】** に変更されます。

【プリントサーバー停止】 をクリックすると、プリントサーバーサービスがシャットダウンし、プリントサーバー機能が停止します。どのプリンターもこの時点で動作しません。

注記

ワークステーション上のプリントサーバーへ出力するには：シングルランの開始時や、シーケンスの開始時、または再解析時に、画面の **【プリンタへの出力】** セクションでお使いのプリンタを選択します。



7

EZChrom エディションの 最新バージョンへのアップグレード

この章では、EZChrom エディション A.04.0x からのアップグレードについて説明します。



EZChrom A.04.0x のアップグレードプラン

アップグレードする前に、次の項目を確認してください。

EZChrom を Windows 10 で実行しますか？

既存の EZChrom ワークステーションの Windows 7 または 8.1 から Windows 10 へのアップグレードはサポートされていません。

注意：

- EZChrom エディション A.04.09 を新しい Windows 10 PC にインストールする必要があります。45 ページの「[インストール後のタスク](#)」を参照してください。
- 新しいシステムにデータを移動する必要があります。

M8370AA OpenLab Data Analysis アドオンを使用しますか？

使用する場合は、Windows 7 オペレーティングシステムを維持するか、Windows 7 にダウングレードすることをお勧めします。M8370AA OpenLab Data Analysis アドオンは、EZChrom エディション A.04.09 には含まれません。Windows 10 ではサポートされていません。

現在の Windows 7 オペレーティングシステムを維持し、EZChrom のみアップグレードしますか？

77 ページの「[EZChrom の A.04.09 へのアップグレード](#)」を参照してください。

EZChrom の A.04.09 へのアップグレード

現在インストールされている EZChrom Edition のリビジョンによって、EZChrom A.04.09 へのアップグレード手順が異なります。直接的なアップグレードは、A.04.07 SR2 以降でのみサポートされています。

- リビジョン A.04.07 SR2 以降 : アップグレードウィザードを実行します。EZChrom が A.04.09 にアップグレードされます。

お使いのシステムで次の ELSD ドライバー (G7102A、G4261A/B、または G4260A/B) のいずれかを使用している場合、ELSD ドライバーは、バージョン A.01.07 に更新されます。

コントロールパネルはリビジョン A.02.02 のままとなります。このバージョンでは OpenLab Data Analysis アドオンをサポートしています。OpenLab Control Panel リビジョン 2.3 にアップグレードするには、別の手順が必要となります。



図 1 コントロールパネル A.02.02 ユーザーインターフェイス

- リビジョン A.04.06 以前 :

既存の EZChrom をアンインストールし、A.04.09 をインストールします。

お使いのシステムが次の ELSD ドライバー (G7102A、G4261A/B、または G4260A/B) のいずれかを使用している場合、Windows コントロールパネルの [プログラムと機能] オプションを使用して ELSD ドライバーをアンインストールします。アップグレードの手順については、インストールメディアに付属の『ReleaseNotes_ELSD_RCNETDriver_A.01.07.pdf』を **Disk5\Docs\ENU** フォルダで参照してください。

EZChrom エディションの 最新バージョンへのアップグレード

EZChrom の A.04.09 へのアップグレード

コントロールパネルリビジョン 2.3 は、EZChrom A.04.09 インストールに含まれます。このコントロールパネルバージョンは異なった外観になります。



図 2 コントロールパネル 2.3 ユーザーインターフェイス

OpenLab Data Analysis アドオンは、このコントロールパネルバージョンではサポートされていません。

ライセンスアップグレード

アップグレードライセンスファイルの取得

次のバージョンの OpenLab CDS EZChrom Edition にアップグレードする前に **SubscribeNet** でライセンスを更新する必要があります。コアソフトウェアをアップグレードする前にワークステーションのライセンスをアップグレードすることを強くお勧めします。新しいワークステーションライセンスを持たないスタンドアロンワークステーションでコアソフトウェアをアップグレードしても、**OpenLab Control Panel** に新しいワークステーションライセンスが追加されるまでは機能しません。

SMA を契約している場合は、次の手順でライセンスをアップグレードできます。

- 1 以下の処理中、**SubscribeNet** で、**OpenLab CDS EZChrom Edition** がすでにインストールされたワークステーションのホスト名または **MAC** アドレスを入力するよう要求されます。

このホスト名および **MAC** アドレスを取得するには、コントロールパネルを開き、**[管理] > [ライセンス]** セクションへ移動します。ホスト名を記録し、**[MAC アドレスのコピー]** または **[MAC アドレスの保存]** 機能を使用して **MAC** アドレスを取得します。

- 2 Agilent Electronic Software and License Delivery (<https://agilent.subscribe.net.com/>) にログインします。
- 3 **[Manage License by Host]** へ移動します。**[Host ID]** フィールドに、前に記録した **MAC** アドレスを入力し、**[Search]** をクリックします。

該当するホスト名が表示されない場合、複数の **SubscribeNet** アカウントでライセンスを管理している可能性があります。これらのアカウントにログインして、ワークステーションライセンスをアップグレードする必要があります。

- 4 ライセンスがアップグレードに適している場合、**[Upgrade All]** ボタンが表示されます。そうでない場合は、Agilent 販売店に連絡して、ソフトウェアメンテナンス契約を更新する必要があります。アップグレードライセンスの作成を続行するには、ボタンをクリックします。

- 5 **[Upgrade All Licenses for License Host]** ページで、データをレビューし、**[Upgrade All]** をクリックして確認します。

これによりライセンスファイルが最新バージョンにアップグレードされます。SubscribeNet からお客様に、新しいライセンスファイルの添付された電子メールが送信されます。

- 6 システムに新しいライセンスファイルを追加します (80 ページの「[システムへのアップグレードライセンスファイルの追加](#)」を参照)。

複数のスタンドアロンワークステーションを使用している場合、各ワークステーションでこの手順を繰り返します。

各ワークステーションの MAC アドレスがファイル名となります。これによりワークステーションのコントロールパネルにインポートする適切なライセンスファイルを識別できます。

システムへのアップグレードライセンスファイルの追加

追加の機器コントロールやクライアントライセンスなど、新しいオプションをご購入し、SubscribeNet でライセンスを再作成した場合には、アップグレードライセンスファイルをシステムに再適用する必要があります。

- 1 ライセンスをインストールしたいシステムに接続されているマシンから、コントロールパネルを起動します。
- 2 **[管理] > [ライセンス]** の順に選択します。
- 3 リボン内の **[ライセンスの削除]** をクリックします。
- 4 リボン内の **[ライセンスの追加]** をクリックします。
- 5 SubscribeNet のライセンス作成プロセスで保存したライセンスファイルを参照して開きます。
- 6 以下の Windows サービスを再起動します。
 - **Agilent OpenLab License Server**
 - **Agilent OpenLab Licensing Support**

アップグレードウィザードの実行

- 1 EZChrom Edition Master Installer の **【プラン】** 画面から、**【インストール】** 画面に切り替えます。
- 2 **OpenLab CDS EZChrom Edition** を選択します。

OpenLab CDS EZChrom Edition がすでにインストールされているため、**【OpenLab CDS EZChrom Edition アップグレードウィザード】** が自動的に開きます。
- 3 ワークステーションライセンスをアップグレードする必要があります。
79 ページの **「ライセンスアップグレード」** を参照してください。

ライセンスがアップグレード済みであることを確認してから、**【次へ】** をクリックして先に進みます。
- 4 **【規約に同意します】** を選択します。この条件に同意しないとアップグレードを開始できません。**【次へ】** をクリックします。
- 5 認証プロバイダーがコンフィグレーションしてある場合：**【登録用の OpenLab Shared Services 設定】** 画面で、システム管理者の権限を持つユーザーのユーザー名とパスワードを入力します。**【次へ】** をクリックします。
- 6 **【GATE（監査証跡）設定】** 画面で、このネットワークワークステーションで監査証跡を自動的に有効にするかどうかを選択します。必要に応じて、**【すべての監査証跡を有効】** チェックボックスをオンにします。**【次へ】** をクリックします。

監査証跡オプションを有効にすると、無効に戻すことはできません。
- 7 アップグレードウィザードの **【サマリ】** 画面に、アップグレード対象のコンポーネントのリストが表示されます。**【開始】** をクリックして、アップグレードを進めます。

アップグレード中にエラーが発生した場合、エラーメッセージが表示されます。
- 8 アップグレードが完了したら **【完了】** を選択して、**【OpenLab CDS EZChrom Edition アップグレードウィザード】** を閉じます。

既存の機器コンフィグレーションは、アップグレードの後も変更せずに残すことができます。

EZChrom エディションの 最新バージョンへのアップグレード

アップグレードウィザードの実行

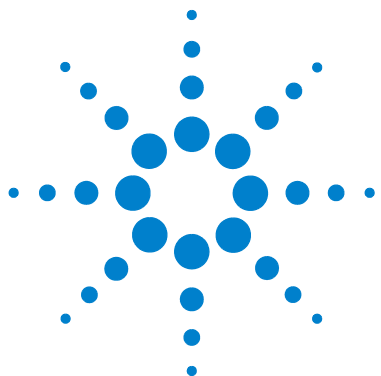
注記

35900 機器の場合、クラシックドライバーが、EZChrom Edition Master Installer によって自動的にインストールされます。RC.NET ドライバーを使用する必要がある場合（AIC 上で 2 つの機器間でチャンネルを分割するなど）、先に新しいドライバーをインストールしてから機器を再コンフィグレーションする必要があります。

クラシックドライバーで作成されたメソッドは使用できなくなります。RC.Net ドライバーで新規メソッドを作成してください。

注記

A.04.08 以降では、フラクシオンコレクタ用のクラシックドライバーはサポートされません。機器コンフィグレーションを変更し、RC.NET ドライバーで新規メソッドを作成してください。



8

ソフトウェアのアンインストール

この章では、OpenLab CDS EZChrom Edition アンインストールウィザードを使用したアンインストールについて説明します。また、同じコンピュータに EZChrom を再インストールする場合、アンインストール後に必要な作業についても説明しています。



アンインストールについて

注記

EZChrom Edition Master Installer を使用せず手動でインストールしたヘッドスペース、PAL、サードパーティドライバなどの追加ソフトウェアは、OpenLab CDS EZChrom Edition をアンインストールする前に、Windows コントロールパネルを使って、アンインストールする必要があります。

インストールと同様、OpenLab CDS EZChrom Edition のアンインストールも OpenLab CDS EZChrom Edition Master Installer から自動的に実行できます。

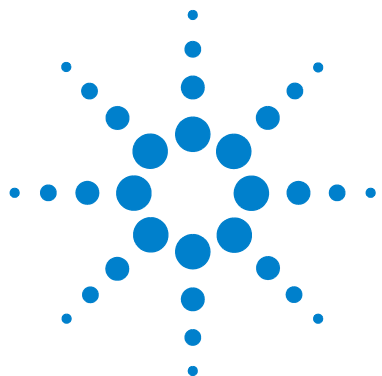
EZChrom Edition Master Installer は、同じユーザーインターフェイスを使用してすべてのコンフィグレーションのソフトウェアのアンインストールができる仕様になっています（スタンドアロンまたはネットワークワークステーション）。EZChrom Edition Master Installer の **【メンテナンス】** セクションの **【OpenLab CDS EZChrom Edition アンインストールウィザード】** を使用すると、アンインストールの手順が表示されます。

注記

OpenLab CDS EZChrom Edition のアンインストールには、Windows のアンインストールツールを使用しないでください。

OpenLab CDS EZChrom Edition アンインストールウィザードの実行

- 1 **Windows 7 の場合**、[スタート] > [Agilent Technologies] > [OpenLab] の順に選択します。**Windows 10 の場合**、[スタート] > [Agilent Technologies] の順に選択します。
- 2 **OpenLab CDS のアンインストール** を選択します。
[OpenLab CDS EZChrom Edition アンインストールウィザード] が開きます。
- 3 **[共有コンポーネント]** 画面で、**[ソフトウェアベリフィケーションのアンインストール]** チェックボックスをオンにします。
注記 : OpenLab CDS EZChrom Edition を後に再インストールする場合には、Software Verification Tool をアンインストールする必要があります。
- 4 **[OpenLab CDS EZChrom Edition コンポーネントのアンインストール]** の **[サマリー]** 画面には、アンインストールするコンポーネントのリストが表示されます。
- 5 **[開始]** を選択してアンインストールを開始します。
アンインストールを中止する場合は、**[キャンセル]** を選択します。設定を変更する場合は、**[戻る]** を選択します。
リストされているコンポーネントがすべて、順々に自動的にアンインストールされます。
- 6 アンインストールが完了したら、**[完了]** をクリックし、アンインストールウィザードを閉じます。



9

営業およびサポートの お問い合わせ先

営業およびサポートのお問い合わせ先については、以下のウェブサイトを確認してください。

<https://www.chem-agilent.com/contents.php?id=1001827>



www.agilent.com

本書の内容

本インストールガイドでは、Agilent OpenLab CDS EZChrom Edition ワークステーションのインストールおよび設定について説明しています。

© Agilent Technologies 2010-2018

Printed in Germany
07/2018



M8201-96078



Agilent Technologies